

課外教養プログラムプロジェクト 2024年度 活動報告書

法政大学学生センター

2024 年度報告書の刊行に寄せて

法政大学学生センター長 武生 昌士

2024 年度の課外教養プログラムプロジェクト（KYOPRO）は、3 キャンパスいずれも新たな取組みにチャレンジした 1 年だったといえるのではないのでしょうか。市ヶ谷ではリーダーズの「新メンバーの育成」等に関する取組み、多摩では初の長時間企画の実施、小金井では小金井 KYOPRO としては初の学外での企画実施、また夏休み中の企画実施等、いずれも新たな取組みに意欲的にチャレンジしたことは、学生スタッフの成長・良い経験となったのではないかと思います。

他方で、これは永遠の課題でもあるのですが、学生スタッフ間の活動に対する熱量の差が目立った部分もあったようです。確かに、課外教養プログラムの究極の目的はプログラムの実施にあるわけですが、その実現のためには結局のところ、学生スタッフ間の親睦や相互理解が不可欠となります。その本質においては、サークル活動と何ら変わるところはないはずです。たとえばブラスバンドは、パート練習・全体練習を経て最終的に 1 曲の演奏を形作っていくわけですが、その過程では、曲と関係のない何気ない日常会話や、帰り道に一緒に食事をするといった交流も生まれるわけです。逆にそういった交流から育まれる関係性がなければ、時につらい練習を乗り越えることは、なかなか難しいでしょう。課外教養プログラムの実施も、本質は同じではないのでしょうか。日々の交流を通じて育まれる関係性あってこそ、プログラムを成功裏に実施することが可能となるように思われます。ビジネスではないのですから、プログラムの実施という結果だけに着目するのではなく、その過程も大事にしてもらいたいです（むしろプロセスの方こそが大事だ、というのはさすがに言い過ぎでしょうか）。プログラムとは直接関係なく、有志でどこかに遊びに行ったりしてもよいはずで、そういったスタッフ間交流が活性化することを切に願います。まずは各キャンパスの親睦を深め、いずれは 3 キャンパスの交流ももっと活性化できれば、課外教養プログラムはますます魅力的なものとなっていくことでしょう。

市ヶ谷の「人工知能に心はあるのか～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考える AI 講座～」・「妖怪の正体に迫る！～古の伝承と現代の姿～」、多摩の「世界の楽器と音楽文化に触れてみよう！」・「見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから」・「教育ボードゲームのデザインワークショップ」、小金井の「天気のコトを学ぼう！気象研究所見学 in つくば」・「焚き火体験～アウトドアを楽しもう！～」等、学生スタッフの興味関心に基づく、教養の名にふさわしいプログラムが多数実施された、充実した 1 年となったと感じています。実施に当たり尽力して下さった学生スタッフ諸君、学生をサポートして下さった担当職員の皆様、またお力添えを下さった講師の先生方に、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

2024 年度の成果を活かし、今後も多様で魅力的なプログラムが活発に展開されることを祈念致します。

目 次

法政大学後援会補助事業（2007 年度文部科学省「学生支援 GP」採択事業）

2024 年度報告書の刊行に寄せて

法政大学学生センター長 武生 昌士

課外教養プログラムプロジェクト（KYOPRO）活動報告

学生スタッフの活動記録	2
プログラム実施報告	6

付録	73
----	----

課外教養プログラム プロジェクト活動報告

課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO) 学生スタッフの活動記録 (2025.3.31 現在)

1. メンバー構成：計 72 名 ※2024 年度卒業生を含む

(1) キャンパス別内訳

市ヶ谷キャンパス 23 名

多摩キャンパス 29 名

小金井キャンパス 20 名

(2) 学年別内訳

1 年生 16 名 (市 10 多 2 小 4)

2 年生 32 名 (市 5 多 17 小 10)

3 年生 12 名 (市 5 多 4 小 3)

4 年生 12 名 (市 3 多 6 小 3)



2. ミーティング

市ヶ谷キャンパス：春学期 週 1 回 (曜日不定) / 秋学期 週 1 回 (曜日不定)

多摩キャンパス：春学期 週 1 回 (曜日不定) / 秋学期 週 1 回 (曜日不定)

小金井キャンパス：春学期 週 2 回 (曜日不定) / 秋学期 週 2 回 (曜日不定) 実施

※その他、全体ミーティング (3 キャンパス合同) を状況に応じて対面・オンラインを使い分けて、実施した。

3 キャンパスの学生リーダーの会議を随時実施した。

3. 実施目的

- ・プロジェクト活動を通じた「ピアサポート」活動の展開
- ・プロジェクト活動を通じた「コミュニティ」の形成、「社会人基礎力」の養成

4. 担当職員による振り返り

[市ヶ谷キャンパス] 担当：鎌田愛子、末廣綾乃

2024 年度の課外教養プログラム学生スタッフは新スタッフを 11 名迎え、1～4 年生含めて 23 名体制で運営・企画立案を行った。2024 年度リーダーズの学生たちは複数の目標を掲げ、特に「新メンバーの育成」については、サポート係以外も新スタッフのサポートをするよう促す、ミーティングの役割を新入生に依頼し役割を覚えてもらう等、ミーティングや企画に参加しやすいようなサポートを行っていた。さらに、新規加入のメンバーが活動に定着するよう、リーダーズが加入希望者向けに KYOPRO の意義や魅力を言語化して説明したことで、新メンバーは加入時から KYOPRO の活動に対して理解が深いと感じる。

7 月の「人工知能に心はあるのか～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考える AI 講座～」企画は、参加人数は少なくても参加者一人ひとりが深い学びを得た、満足度の高い企画であった。話のテーマは、「AI とは何か」といった基本的な知識にとどまらず、AI に心があるのかを判断するために、「心があると見分けるにはどうすればよいのか」についてまで及んだ。参加学生が話し合いの中で意見を深めていく様子が印象に残った。学外へ行く企画や体験系の企画は参加者が集まりやすい一方で、講義と議論を中心にした企画は参加者が集まりにくい傾向にある。参加者が集まりやすい企画、興味関心が得られやすい企画というのも大事だが、それだけではなく、学生スタッフ自身の興味関心に基づいた、専門的で、一見難しく感じられる内容をテーマにした企画も継続して実施してほしい。

10 月の「妖怪の正体に迫る！～古の伝承と現代の姿～」企画は、KYOPRO スタッフのミッションである「参加者間の交流」を体現した企画であった。「妖怪がつけられるプロセスを追体験しよう！」をテーマにグループワークを行

い、伝承のすれによる妖怪の変遷を体験することができた。グループの中で笑いが起こる等、参加者同士のコミュニケーションが活発であった。また、就職活動の終わった4年生がチームに戻ってきてくれることで、学生スタッフ同士の交流が活発化し、安定感があった。4年生が戻ってくる組織としての良い伝統は、今後も継続してほしい。

上記2つの企画は、学生スタッフが事前に講義やグループワークで知りたい・行いたい内容を考えたうえで講師との打ち合わせに臨んでいた。講師が提案するパッケージ化された企画にならないよう、KYOPRO スタッフのミッションといった原点に戻り、KYOPRO らしい学生スタッフが考える魅力ある企画づくりを支援していきたい。

〔多摩キャンパス〕担当：佐藤 貴広

2024年度は、1年生2名、2年生10名の計12名の学生スタッフが加わり、計29名で活動を行った。1年生に関しては、学生生活ガイダンスや新歓ブースで興味を持った学生が入会し、2年生に関しては、メール配信や友人の紹介で入会する学生が多かった。

春学期は「津久井湖ウォーキング～多摩キャンパスの周りの魅力を知ろう～」のみの実施となった。本プログラムは、職員発案であるが、広報や当日の運営等は学生スタッフが行い、多摩キャンパスの立地を活かした学生間交流に適したプログラムとなった。多摩キャンパスとしては初めてのウォーキングプログラムであったが、歩きながらの自己紹介リレーや道中の観光スポットにて学生スタッフが解説をするなど参加者が飽きないような工夫をしたおかげで、参加者同士で連絡先を交換し合う姿をみるなど、学生間交流を体現できたプログラムであった。

夏季休業期間では、「世界の楽器と音楽文化に触れてみよう！」「見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから」という2つの外出系プログラムを実施した。どちらのプログラムも学生スタッフが事前に下見をしていたので受付場所や施設のレイアウト等を把握して実施することができたため当日のトラブルはほぼなく実施することができた。「世界の楽器と音楽文化に触れてみよう！」では、事前の講師打ち合わせにてとても詳細な点まで確認していたおかげで学生スタッフのやりたい内容をそのまま実施できたと感じる。「見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから」では、動物愛護の企画をしたいと思いKYOPROに入会した1年生の発案企画であった。上級生がしっかりとサポートし、実施することができた。また、施設まで最寄り駅・バス停が複数ありながらも30分ほど歩かなければたどり着かない場所であったため、集合・受付を2つ設けて対応した。初めての経験となったが、学生スタッフと職員間の連携もうまくいき予定どおりの時間で実施することができた。この2つのプログラムの企画班メンバーは事前準備の大切さを学ぶとともに達成感を得られたのではないかなと思う。

秋学期および春季休業期間は「バレエの魅力とその歴史について知ろう」「紅葉の高尾山ハイキング」「教育ボードゲームのデザインワークショップ」「星空観察～多摩の冬空を望遠鏡で見る、癒しのひととき～」の4つを実施した。「紅葉の高尾山ハイキング」は、4年生が1人で企画し実施したプログラムで、企画してから1か月ほどの期間で実施したものとなった。今までの経験を存分に発揮し、企画書は1週間もかからず作成、ポスター作成やメール配信文などの広報も1週間ほどで完成し、今までで最も早く実施できた企画となった。「教育ボードゲームのデザインワークショップ」は、多摩KYOPROでは初めての12:00～17:00と長時間のプログラムであり、1年生が主導で行った。企画書から広報、講師連絡にも携わり、自分のやりたいプログラムを実施できた経験はとても大きなものになったのではないかなと思う。

全体を通して、2024年度は新しい経験をたくさんした年度となり、一から考える大変さを学んだのではないだろうか。その分、プログラム実施後は達成感を感じている様子も見受けられ、KYOPROの活動の楽しさも実感していたように感じる。

KYOPROの運営に関しては、活動に途中から来なくなる学生スタッフが多く、リーダーが苦勞していた。春学期から交流する機会が少なく、学生スタッフ同士の交流が楽しいから活動をするよりも、とりあえず1つ企画を動かしてみろという感覚で活動をしている学生スタッフが多かったように感じる。定例ミーティングも無断欠席や直前で欠席連絡をする学生スタッフが多く、ミーティングを実施する意義が分からなくなっているという課題が残っている。2025年度は企画だけでなく、KYOPRO学生スタッフ間の交流にも力を入れて、楽しいKYOPRO目指してほしい。

〔小金井キャンパス〕 担当：菅野 渉

2024年度のKYOPROは、新たに7名のスタッフを加えおそらく小金井では歴代最多人数の20名で活動を行い、「安定した企画運営・実施にあたる」ことを目標に掲げ、春学期は3プログラム、秋学期に3プログラムと計6プログラムの実施をすることができ、昨年度の7プログラムから1つ減ってしまったが、安定した企画実施が行えたと思う。

特筆すべきは、今年度初めて「夏休み中に企画を実施」、「小金井KYOPROでは学外で初めて企画を実施」した点である。

夏休み中の企画実施に関しては、兼ねてから学生からも要望があったが、「そもそも学生スタッフの動きが授業期間中に比べて鈍くなる」、「上手く広報を行わないと参加者が集まらない」という問題点があった。しかしながら、授業期間中から計画を立てて企画実施につなげたことで、企画した学生にとっても大きな自信につながったことであろう。

学外での企画実施は、小金井で毎年要望はあったものの、企画書完成まで至ることができない現状であった。他キャンパスのノウハウを聞きつつ、小金井KYOPROで実施するにあたり課題点、懸念点等の洗い出し、準備を入念に行ったうえで企画を実施することができた。企画当日も大きな混乱もなく終了することができた点は来年度に向けての好材料と言えよう。

一方で課題もあり、「ミーティング時のスタッフの貢献度の低下」、「下級生スタッフの成長」等が挙げられる。

昨年の課題のミーティング参加率に関しては、一定の上昇がみられたが、これはリーダーズが、全員の時間割を確認し、「最低でも週1回は参加できる日程を週ごとに変更」を行ったためである。しかし、ミーティングに出席はしているが、KYOPROの運営に協力しないスタッフが目立つようになった。その結果、ミーティングリーダーやリーダーズ、積極的に発言する等で協力的なスタッフの負担が例年に比べて増大するようになった。「人数が多いし人手が足りているので私が何もやらなくても誰にも迷惑がかからない」という考えになってしまい、最初は熱量をもって加入してくれたはずのスタッフがKYOPROと距離を置いた考えになってしまった点は非常に残念である。

この事態を懸念してか、2025年1月から就任した新しいリーダーズは「やる気が向上しないスタッフをこのまま在籍させていてもこのマイナスの空気は払しょくすることはできない」と考え、おそらく小金井KYOPROとしては初の「来年度継続するスタッフのLINEグループの移行」を3月に行った。その結果、移行を希望しなかった8名が小金井KYOPROを去った。

1年生は4名加入となった。企画を実施し順調に成長しているスタッフもいるが、ミーティング等の参加率があまり良くないスタッフの方が多いため、来年度新入生が加入して後輩ができると思うので、新2年生の奮起に期待したい。

3キャンパスミーティングやピアネット合同研修会も参加率が良いとは言えない状況のため、積極的に参加を促すと同時に、「自分とは違う価値観の学生と触れ合うことで、協調性と主体性が芽生える」という社会に出て役につながるスキルが育つというメリットも担当職員から学生スタッフにアピールしていかないと、今の学生スタッフには響かないと感じている。

新入生歓迎会を経て、今後加入してくるであろう新スタッフも含め、学生スタッフの成長と企画を完走することで感じることができる達成感、企画の準備を通して学ぶ準備の大切さ等、自ら気づき行動してもらえる学生スタッフを育てるべく、日々の活動をサポートしていきたい。

2024年度プログラム実施一覧

	実施日	プログラム	実施キャンパス	申込者数	参加者数	留学生数
実施プログラム	4月27日（土）	津久井湖ウォーキング ～多摩キャンパスの周りの魅力を知ろう～	多摩	20	16	0
	5月12日（日）	歴史探検！外濠さんぽ	市ヶ谷	10	7	0
	5月21日（火）・5月24日（金）	東京六大学野球応援（事前学習）	市ヶ谷	37	25	2
	5月25日（土）	東京六大学野球応援（明治大学戦）	市ヶ谷	87	56	2
	5月28日（火）	知識の不確かさを原点回帰！日常から考える統計学	小金井	10	9	0
	5月28日（火）	演劇鑑賞教室（事前学習）	市ヶ谷	36	35	0
	5月29日（水）	演劇鑑賞（鑑賞）	市ヶ谷	77	42	0
	6月3日（月）・6月14日（金）	多目的室利用講習会（第1・2回）	市ヶ谷	45	41	0
	6月10日（月）	ミュージカル鑑賞教室（事前学習）	市ヶ谷	36	17	0
	6月11日（火）	ミュージカル鑑賞教室（鑑賞）	市ヶ谷	70	48	1
	6月15日（土）	歌舞伎鑑賞教室	市ヶ谷	35	35	13
	6月19日（水）	能楽鑑賞教室（事前学習）	市ヶ谷	13	6	1
	6月20日（木）	オレンジホール利用講習会	市ヶ谷	31	26	0
	6月21日（金）	能楽鑑賞教室	市ヶ谷	19	15	4
	7月10日（水）	人工知能に心はあるのか ～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考えるAI講座～	市ヶ谷	11	6	0
	8月5日（月）	今こそ見直そう！日ごろのマナー ～日本と西洋のマナーの比較から理解を深めよう～	市ヶ谷	11	9	4
	8月27日（火）	野菜・果物はどこから？「豊洲市場(青果)の中身」を見てみよう！	小金井	21	17	2
	9月9日（月）	世界の楽器と音楽文化に触れてみよう	多摩	20	18	0
	9月9日（月）	天気のコツを学ぼう！気象研究所見学inつくば	小金井	22	20	0
	9月19日（木）	見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから	多摩	15	10	1
	10月4日（金）	妖怪の正体に迫る！～古の伝承と現代の姿～	市ヶ谷	19	19	0
	10月8日（火）・10月11日（金）	東京六大学野球秋季応援（事前学習）	市ヶ谷	32	26	7
	10月13日（日）	東京六大学野球秋季応援（東大戦）	市ヶ谷	62	53	6
	10月24日（木）	誰でも楽しめる！生涯スポーツ「インディアカ」 を体験しよう！	小金井	11	10	1
	11月10日（日）	法政サッカー部を応援しよう！	多摩	38	26	2
	11月12日（火）	パリオリンピックの話を聞こう！ ～フェンシングの魅力に迫る～	市ヶ谷	8	35	0
	11月15日（金）	バレエの魅力とその歴史について知ろう！	多摩	16	15	0
	11月20日（水）	最新技術が叶えた宇宙食の進化!! ～宇宙食の歴史を学ぼう～	市ヶ谷	21	18	3
	11月21日（木）	危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～	多摩	330	289	0
	11月23日（土）	作って学ぶ食品サンプル ～サンプルの果たす役割や作り方～	市ヶ谷	20	12	2
	12月1日（日）	紅葉の高尾山ハイキング	多摩	28	15	2
	12月7日（土）	教育ボードゲームのデザインワークショップ	多摩	14	11	0
	12月9日（月）	AFRICAN PRINTS PROJECT ～作って学ぶアフリカンプリント～	市ヶ谷	16	13	0
	12月15日（日）	甲子園ボウル（決勝・立命館大学戦）	多摩	34	30	0
	12月20日（金）	三曲体験教室	市ヶ谷	15	10	2
	12月20日（金）	資産形成で学ぶ はじめての金融講座	市ヶ谷	27	17	1
	1月25日（土）	星空観察会 ～多摩の冬空を望遠鏡で見る、癒しのひととき～	多摩	45	31	8
	2月26日（水）	「焚き火体験」～アウトドアを楽しもう！～	小金井	13	12	0
	3月4日（火）	大学生から始める資産形成	小金井	30	16	1

39のプログラムに、約1,120名参加

* 上記は学生スタッフが企画・実施したプログラムだけでなく、既存プログラムなど学生センターが実施したプログラムを含む。

津久井湖ウォーキング ～多摩キャンパスの周りの魅力を知ろう～

日時 2024年4月27日(土) 13:00～15:30

場所 多摩キャンパス～津久井湖

概要

- 参加者数：16名
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化
 - 多摩キャンパス周辺の魅力発見

3. 内容：



学生センター・課外教育プログラム（法政大学後援会補助事業）

津久井湖ウォーキング ～多摩キャンパスの周りの魅力を知ろう～

4月27日(土) 13:00～15:30
集合：法政多摩キャンパス 解散：津久井湖水の苑地

新入生大歓迎！！

清々しい津久井湖の傍で一様に散歩をしませんか？

対象：本学学部生
定員：先着順20名
持ち物：なし

お申し込みはこちらから

※ログインの際には大学のメールアドレス
(---@stu.hosei.ac.jp)をご利用下さい。

※雨天の場合は中止になります。
中止の場合は、前日に別途ご連絡いたします。

お問い合わせ 多摩学生生活課 ☎ 042-783-2152

4月27日(土)に「津久井湖ウォーキング～多摩キャンパスの周りの魅力を知ろう～」を実施いたしました。当プログラムは、法政大学多摩キャンパスの周辺の魅力を知ることを目的として実施いたしました。

城山校地や城山ダムを経由して、ゴールの津久井湖を目指すルートでした。天候が懸念されましたが、プログラム実施の際には雨が降ることもなく無事実施することができました。要所要所でスタッフから地理や歴史について解説をし、城山校地では馬術部の方から説明がありました。実際の馬を見たり、競技で使う道具を見せていただいたりしました。馬術部の方から直接話を聞いて、実際の馬を間近で見るという機会はあまりないと思うので非常に有意義な時間になったのではないかと思います。

ゴールの津久井湖では津久井湖ができた歴史や変遷などを学び、地元食材を使っている手作りジェラートも食べました。道中では、参加者同士が仲良く会話する様子が見受けられ、和気あいあいとした雰囲気に参加できていたのが印象深いです。また、自己紹介をする時間もあり、参加者同士のコミュニケーションを促せたと思います。

参加者からも「多摩キャンパス周辺について知れてよかった」「時間、距離ともにちょうどよかった」などの声をいただき、プログラムとして成功だったのではないかと思います。このプログラムを通して参加者が多摩キャンパスの周辺を知り、その魅力に気付いていただければ幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】高柳陽斗 社会学部社会政策科学科 2年

プログラムの様子



歴史探索！外濠さんぽ

日 時 2024年5月12日（日）10:00～12:00

場 所 市ヶ谷キャンパス周辺（外濠公園、神楽坂）

概 要

- 参加者数：7名
- 講 師：
皆川典久 氏
（東京スリバチ学会会長/法政大学デザイン工学部兼任講師）
- 実施目的：
 - 大学周辺地域に関する地理的な特徴や歴史的な背景を学ぶ機会
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化



4. 内 容：

5月12日、法政大学課外教養プログラム「歴史探索！外濠さんぽ」を実施いたしました。

本企画は、法政大学の周辺である外濠や神楽坂を散策する企画です。講師の方に周辺の地形や歴史の解説をしてもらいながら、実際に歴史的建造物を見て知識を得ることや、歴史的・地理学的視点を持ち、法政大学周辺の土地や大学への愛着心と帰属意識を涵養させることを目的としています。また、散歩をしながら交流する機会を設け、学生が新しい友人作りや友人との親睦を深める人間関係構築のきっかけを提供をする事も目的としています。

本プログラムは東京スリバチ学会会長であり、本学の兼任講師を務めていらっしゃる皆川典久氏を講師としてお招きし、神楽坂と外濠周辺を散策しました。

ルートとしましては、法政大学を出発地点とし、牛込見附門跡や神楽坂善國寺を始めとする計6カ所のポイントを周った後、最終地点の赤城神社に向かうという内容でした。普段何気なく通っている道の途中にも、歴史的・地理的に特徴のあるスポットが数多くあり、参加者の多くが驚いていました。ルートの至る所にある歴史的・地理的スポットに関する皆川氏の講義を、参加者は熱心に楽しく聞いていました。また、参加者は疑問に思ったことを自ら質問するなど、積極的に講義に参加していました。

歴史的・地理的視点を持ち学ぶ姿勢もそうですが、散歩中の参加者同士の交流も盛んでした。学部・学科・年齢が異なる人と、歴史的・地理的スポットに関する話題だけではなく、専攻科目や名前、趣味など様々な話題で盛り上がっていました。体を動かしながら時間を共有したことが、参加者同士が交流するきっかけを自然と後押ししたのではないでしょう。

神楽坂・外濠には今回のプログラムで訪れた場所以外にも、まだまだ多くの歴史的・地理的スポットがあるかと思います。今回のプログラムをきっかけに、もう一度足を運び、このようなスポットを発見するきっかけにしてもらいたいと思います。また、大学周辺だけではなく、住んでいる地域や別の場所も散歩をしながら、歴史探索を行い、新たな出会いのきっかけにもらえれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】吉村末夢 キャリアデザイン学部 キャリアデザイン学科2年

プログラムの様子



東京六大学野球応援(明治戦)

日時

事前学習：

2024年5月21日(火)・24日(金)

観戦日：

2024年5月25日(土) 11:00 試合開始

場所

明治神宮球場

概要

- 参加者数：56名
- 実施目的：
 - 「法政スポーツ」応援を通じた法政大学への帰属意識の涵養
 - 学生同士の交流のきっかけづくり



4. 内容：

5月25日(土) 神宮球場にて学生センター・課外教養プログラム「東京六大学野球応援(明治戦)」を実施しました。

今回のプログラムは「法政スポーツ」の応援を通じて、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけづくりを目的として実施しました。

法政大学 v s 明治大学の一戦は「血の法明戦」と呼ばれています。この春の大会において法政大学は優勝の可能性はなくなりましたが、明治大学に勝ち、秋の大会への勢いをつけたい一戦でした。

今回のプログラムより、昼休みの時間に事前学習の取り組みを始めました。応援団の方々にご協力いただき、応援マナーや応援団リーダー部・チアリーディング部・吹奏楽部それぞれの応援の見所紹介、校歌斉唱など応援の仕方のレクチャーを行っていただきました。初めて六大学野球を観戦する学生や、普段校歌に触れる機会が少ない学生にとって、六大学野球の応援に一足早く触れる良い機会となりました。

参加した学生は、野球観戦を楽しむだけでなく、徐々に応援団と一体となって応援を行う姿が印象的でした。

試合は法政大学と明治大学どちらも譲らない試合展開でしたが、明治大学の攻勢によって残念ながら、0-2 で負けてしまいました。

しかし、参加した学生からは「法政大学の学生として、一丸となって野球部を応援出来て良かった。」「違う学部の方と話す機会となり、応援団のおかげで楽しく観戦できた。」「六大学野球の魅力を知ることが出来た。」とのコメントがあり、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけとすることができました。

課外教養プログラムでは、今後も「法政スポーツ」の応援プログラムを実施していきます。

プログラムの様子



知識の不確かさを原点回帰！ 日常から考える統計学

日 時 2024年5月28日（火）13:20～15:00

場 所 小金井キャンパス東館 1 階 E103 教室

概 要

- 参加者数：9名
- 講 師：
作村 建紀 氏（理工学部経営システム工学科 専任講師）
- 実施目的：
 - 統計学初学者や苦手意識のある学生に対して統計学への意識を
良い方向に変えること
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

2024 年 5 月 28 日（火）に、法政大学課外教養プログラム「知識の不確かさを原点回帰！日常から考える統計学」を実施しました。

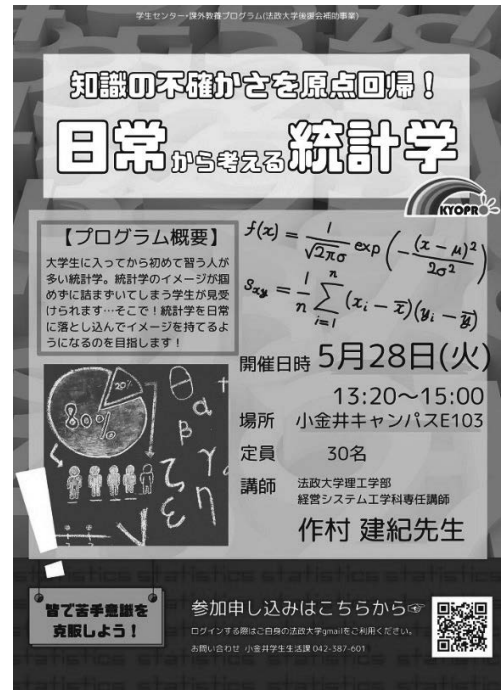
本プログラムは日常的な事柄と統計学の繋がりを通して、統計学初学者や苦手意識のある学生に対して統計学への意識を良い方向に変えることを目的として企画しました。

講義前半は、統計学についての説明と統計学を体感するグループワークを交えながら段階的に深い内容となっていたため、大学の講義では味わうことができない統計学の基礎を学ぶことができました。講義後半では発展した内容が紹介されていたため、前半で誘発された好奇心がさらに掻き立たされました。

特に印象的であったのは、コインを投げて表か裏が出る確率や表表・表裏・裏表・裏裏の4パターンが出る確率を実験してみたところ、講師が予想していた確率とほぼ同じであったことです。確率は理論上だけではなく実践上でも同様であることから、潤沢にあるマイクロデータから新たな理論を確立できるのではないかと考察することができました。

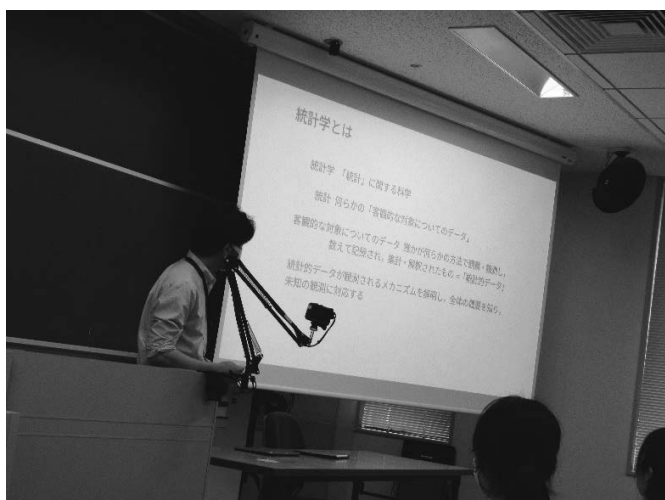
参加学生からは、「これからの学びが楽しみである」「統計学への興味が深まった」「これまで頑張ってきた統計学の勉強が報われるほど良い講義であった」「最尤推定と相対度数が同じということを知れた」など、多くの感想をいただきました。

今回のプログラムを通して、統計学とは何事の事象もデータとして扱いそれを元に推定することであると改めて実感することができました。理系学生として統計学的処理は避けては通れない道です。本プログラムで得られた統計学的思考法を今後の研究活動に活かしていくことができれば幸いです。



【報告・KYOPRO スタッフ】市川 結梨 生命科学部生命機能学科 2 年

プログラムの様子



演劇鑑賞教室

日時

事前学習：

2024年5月28日（火）

鑑賞：

2024年5月29日（水）18：15～

場所

事前学習：

外濠校舎 5 階 523～526 短期間儀室

鑑賞：TBS ACT シアター

概要

1. 参加者数：42名

2. 実施目的：

- 演劇（舞台）作品の鑑賞方法や楽しみ方を学ぶ機会
- 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

5月28日・29日に学生センター主催課外教養プログラム「演劇鑑賞教室」を実施しました。本プログラムは今年度初めて、TBS 赤坂 ACT シアターを運営している株式会社 TBS テレビ様のご協力いただき、事前学習と観劇の2つの構成で実施しました。

28日の事前学習では、演劇を行うにあたって著作権や装飾等を各権利元と調整する大変さや、舞台周辺の街並みへのこだわりを伺いました。ひとつの舞台を作り上げるために、長い歳月と様々な熱い想いがあることを学びました。

29日の鑑賞では、TBS 赤坂 ACT シアターにて舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』を鑑賞しました。通常の舞台と異なり、演出がとても特徴的で観客を楽しませるアイデアが詰め込まれた舞台でした。例えば、魔法で変身するシーンではその場で実際に人が変身したり、魔法を発すると本当に杖から火が出たりするなど、まるで映画のような演出が多く場面であり、迫力満点のステージでした。参加した学生も演出に惹きつけられ、食い入るように観劇している姿が非常に印象的でした。

企画終了後に実施した参加者アンケートでは、「事前学習で見どころを教えてくださいからこそ、時間を移動するシーンや、湖を泳ぐシーンなど、より楽しむことができました。映像ではない、演劇だからこそその楽しさや感動があったと感じた」、「エンタメ作品のプロデュースの裏側について知ることができて本当に興味深かった」という意見がありました。

事前学習によってより演劇を楽しむことができ、今後も演劇を鑑賞したいという学生が多く、今後につながる良い機会になったのではないかと思います。

学生センター主催課外教養プログラム
(法政大学後援会協力事業)

鑑賞プログラム
舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」



本格的な演劇を、鑑賞しよう

演劇鑑賞教室

※事前学習では、本舞台の制作会社の方（法政OB）から、今回の舞台の魅力やキャリア等についてご講演頂きます。

実施日：
5月28日（火）17:00～18:30（事前学習）
5月29日（水）17:45（集合）/18:15（開演）

場所：
 （事前学習）外濠校舎5階523～526短期間会議室
 （鑑 賞）TBS赤坂ACTシアター

定員：44名
料金：1,000円
対象：本学学部生

注意事項：
 申込み：各キャンパスの学生生活課
 申込み：学生センターよりチケットの受け渡しに際する連絡があるため、大学からの連絡は逐一確認するようお願い。

お申込み：各キャンパスの学生生活課
 お問い合わせ：03-3204-9475

プログラムの様子



多目的室・オレンジホール利用講習会

日 時

(多目的室)

2024 年 6 月 3 日 (月) 16:50~18:00

2024 年 6 月 14 日 (金) 16:50~18:00

(オレンジホール)

2024 年 6 月 20 日 (金) 16:50~18:00

場 所

(多目的室)

市ヶ谷キャンパス外濠校舎地下 1 階多目的室 1

(オレンジホール)

市ヶ谷キャンパス富士見ゲート校舎

地下 2 階オレンジホール

概 要

1. 参加者数：41 名 (2 日間あわせて)
2. 講 師：舞台技術研究会 (本学登録団体)
3. 実施目的：

- 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
- 利用マナー、機材利用方法を学び正しく施設を使えるようになる

4. 内 容：

6 月 3 日・14 日・20 日に多目的室とオレンジホールを利用する団体向けに利用の基本的なマナー、および専門的な音響・照明設備の概要と扱い方・照明と音出し等比較的操作が簡単な機材の操作方を習得してもらうことを目的として、「利用講習会」を実施しました。

講習会では基本的なマナーや操作方法だけでなく、各機材の適正な使用法だけでなく、多様な表現方法も学ぶ講習会を行いました。

当日は、ステージの照明・音響設備の操作を専門的に行う舞台技術研究会 (本学登録団体) さんにご協力頂き、音楽活動や演劇活動を行う各団体に対して、レクチャーをして頂きました。

各団体が共用して使用する施設である為、今回学んだ知識を活かして、自団体の活動をより本格的にするだけでなく、次に使用する団体が気持ちよく使えるように配慮をして頂きたいと思います。

照明や音響機材を使用しない利用 (練習のみなど) する団体には利用マナーのみの講習を受けて頂きました。利用マナー講習は学生センター職員が行い、施設の基本的な使い方や備付の音響操作卓の使用方法等について説明を行いました。

課外教養プログラムでは今後も本学登録団体を講師とした企画を実施予定です。

学生センター・課外教養プログラム (学芸人学術協会共同事業)

2024 年度「多目的室・オレンジホール」利用講習会

外濠校舎地下 1 階にある「多目的室」と、富士見ゲート地下 2 階にある「オレンジホール」を利用する団体を対象に「利用講習会」を開催します。
この講習会では、各団体所属の専任講師だけでなく、利用マナー講習も併せて行います。
※音響・照明設備・オレンジホールの利用を希望する団体は、下記を必ずお読みください。
※音響・照明設備・オレンジホールを利用する場合は、必ず事前に申し込みが必要です。

！参加がない場合には、いかなる理由であろうと当年度の利用は認められません！

概要

<対象者>
講習会は以下の通り、2 バターンあります。団体の利用用途に合わせて受講する講習会を選択して下さい。

A：ライブや公演・演奏等で音響照明設備を使用する団体向け
音響照明設備の概要と扱い方・機材の出し入れと音出し等の機材の操作方法を指導し、自らの団体で一度音響照明設備を扱うようになることを目的としています。
受講者には 2024 年までの終了証が交付され、音響照明設備を利用できるようになります。

B：練習等で使用する団体 (音響照明設備を一度も使用しない団体) 向け
利用マナー講習会のみ受講していただきます。

【参加費】
概ね講習会では、音響照明設備の概要と扱い方・機材の出し入れと音出し等の機材の操作方法を指導し、自らの団体で一度音響照明設備を扱うようになることを目的としています。

【利用マナー講習会とは】
利用の基本的なマナーや機材の扱い方について説明します。

日程

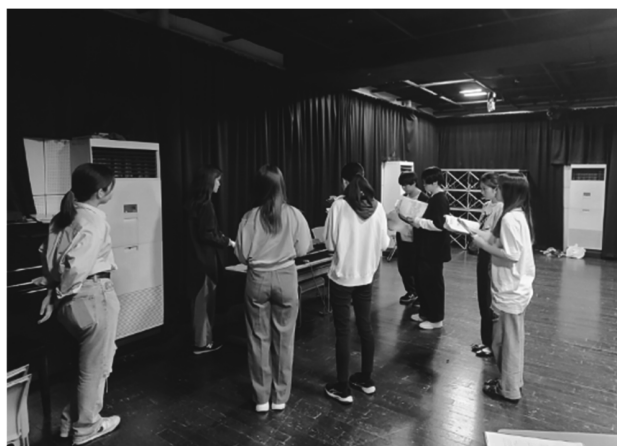
<多目的室>
多目的室講習会+利用マナー講習会 (A に該当する団体向け)
① 6 月 3 日 (月) 16:50~18:00 ② 6 月 14 日 (金) 16:50~18:00
多目的室利用マナー講習会 (B に該当する団体向け)
③ 6 月 3 日 (月) 17:30~18:00 ④ 6 月 14 日 (金) 17:30~18:00

<オレンジホール>
オレンジホール講習会+利用マナー講習会 (A に該当する団体向け)
① 6 月 20 日 (金) 16:50~18:00
オレンジホール利用マナー講習会 (B に該当する団体向け)
② 6 月 20 日 (金) 17:30~18:00

1. 受講対象：多目的室・オレンジホール利用を希望する団体の所属員
2. 講 師：舞台技術研究会
3. 申込方法：下記の Google フォームに必要事項を入力の上、お申し込み下さい。
<https://forms.gle/1HwH85eYFp3o3uR9>
4. 申込期間：6 月 13 日 (月) ~ 6 月 30 日 (木)
※希望者多数の場合は、参加希望者を定めていただくことがありますので、お早めに申込して下さい。

2024 年 5 月 13 日
学生センター

プログラムの様子



ミュージカル鑑賞教室

日 時 6月11日（火）18:30～

場 所 JR 東日本四季劇場（秋）

概 要

- 参加者数：48 名
- 実施目的：
 - ミュージカル鑑賞を通じた芸術作品に関する教養教育
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

6月10日・11日に学生センター主催課外教養プログラム「ミュージカル鑑賞教室」を実施致しました。本プログラムは劇団四季のご協力の下、事前学習と観劇の2つの構成で実施しました。

10日の事前学習では劇団四季の木崎氏にご登壇いただき、劇団四季概要や俳優について講義いただいた後、11日に鑑賞する『ゴーストアンドレディ』の概要や見どころについて説明い

ただきました。講義では劇団四季の舞台・俳優に関する話はもちろん、舞台以外の話や劇団四季の理念や思いなど普段は中々聞くことのできない内容が多く盛り込まれており、学生が真剣に講義を受ける様子が印象的でした。また、質疑応答では、木崎氏のキャリアに関する質問から演劇に関する質問まで幅広い質問が多く多くの学生からあり、本企画の関心度の高さを感じることができました。

11日はJR東日本四季劇場【秋】にてミュージカル『ゴーストアンドレディ』を鑑賞しました。『ゴーストアンドレディ』は漫画家の藤田和日郎氏の「黒博物館ゴーストアンドレディ」を原作とし、トニー賞を受賞した実績がある著名な振付師であるチェイス・ブロック氏が振付を行った、劇団四季の新作オリジナルミュージカルです。信念をつらぬくナイチンゲールと、劇場ゴーストのグレイの絆を描いた大作で、本企画は劇団四季の大作ミュージカルということもあり、早々に満員となる人気企画になりました。ミュージカル鑑賞が初めての学生やミュージカルを見たことがある学生、1人での参加、友人同士で参加する方など様々であり、思い思いに観劇を楽しんでいる様子でした。

企画終了後に実施した参加者向けアンケートでは、「普段なかなかハードルが高くて参加を躊躇ってしまうような場に行くことができて、貴重な体験ができました。」という意見や「実際に劇団四季の方からお話を聞けて一層作品が面白く観れました。」という意見を頂きました。

事前学習を受け鑑賞したことで、学生にとってさらに貴重な体験になったと実感しました。

課外教養プログラムでは、今後も芸術文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶこと・学生同士で交流ができるプログラムを実施していきます。



プログラムの様子



歌舞伎鑑賞教室

日 時 2024 年 6 月 15 日（土）14:30～16:40

場 所 サンパール荒川

概 要

1. 参加者数：35 名
2. 実施目的：
 - 日本の伝統芸能の 1 つである歌舞伎の鑑賞を通じて、日本文化を体験する。



お申し込み：各学生生活課
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課 TEL: 03-3264-9481

3. 内 容：

6 月 15 日（土）、学生センターの課外教養プログラム「歌舞伎鑑賞教室」を実施しました。本プログラムは、鑑賞を通じた日本文化に関する教養教育を目的としています。今回の演目は『恋飛脚大和往来一封印切ー』でした。

今回の課外教養プログラムは、国立劇場が歌舞伎に触れたことがない人にも、分かりやすく、楽しく歌舞伎を観ることができるよう「歌舞伎鑑賞教室」として開催されている公演に参加してきました。「鑑賞教室」ということもあり、演目が始まる前に、澤村宗之助さんによる『歌舞伎のみかた』の解説があり、上演中に演者の演技を強調させる演技法の本をたたいて大きな音を出す「ツケ」や「女形の所作」などについてユーモアを交えてお話しいただくとともに、今回の演目『恋飛脚大和往来一封印切ー』の登場人物やものがたりの見どころなどにも触れていただき、普段あまり経験することのない劇場での鑑賞で緊張気味だった私たち大学生をほぐしていただいた上での演目鑑賞となりました。

解説後、『恋飛脚大和往来一封印切ー』を舞台から一番近い良席で鑑賞しました。感情表現の豊かな演技や歌舞伎独特の立ち居振る舞い等、魅力的な演技の様子に参加者は真剣に鑑賞していました。また、ものがたりの場面ごとに舞台の演出を短時間で転換させる舞台技術に、再び幕が開いた時には学生も驚いた様子でした。

本プログラムは、留学生の参加も多く、留学生参加者からは、「It was great to experience a form of traditional Japanese arts, while also being given background context and history of Kabuki. (歌舞伎の背景や歴史を学びながら、日本の伝統芸能を体験できたのは素晴らしい経験でした。)」といった感想があり、他の学生からは「今回、歌舞伎鑑賞がはじめてだった為、はじめに解説のある鑑賞教室という形式を鑑賞できたことで、何となく観るのではなく、理解を深めた上で鑑賞することができました。座席も最前列で、役者の

2024年度・KYOPRO 活動報告

表情や息使いを間近に感じることができ非常に貴重な機会でした。」といった感想が聞けて、学生にとって貴重な経験になったようです。

課外教養プログラムでは、今後も日本の伝統文化に関する知識を身につけ、体験を通して学ぶことの出来るプログラムを実施していきます。

プログラムの様子



能楽鑑賞教室

日 時

6月19日(水) 17:00~18:30 (事前学習)
6月21日(金) 14:00~16:00 (能楽鑑賞教室)

場 所

富士見坂校舎 6 階和室 (事前学習)
国立能楽堂 (能楽鑑賞教室)

概 要

1. 参加者数: 事前学習: 6 名、観 劇: 15 名
2. 実施目的:
 - 能楽鑑賞を通じた伝統芸能に関する教養教育
3. 内 容:

6月21日(金)、学生センターの課外教養プログラム「能楽鑑賞教室」を実施しました。本学の登録団体である能楽研究会が講師となった事前学習を受講し、実際に国立能楽堂に鑑賞に行きました。

6月19日(水)の事前学習会では、能と狂言の違い、お囃子、能面・能装束、狂言、能楽鑑賞のマナーを実演を交えながら能楽研究会が解説し、鑑賞前に理解を深めました。

「竹生島」「敦盛キリ」「羽衣キリ」「放下僧小歌」「春日龍神」の5演目を実演いただき、興味深く鑑賞しました。参加者からは、「目線について」、「能楽研究会に入った動機」「能の装束について」などの質問があり、事前講習会終了後も、参加学生と能楽研究会の学生とで賑やかに話をする姿が見られました。

鑑賞教室当日は、参加者から「事前学習会のおかげで能に関する理解を深め、鑑賞を楽しむことができた」との声があり、事前学習会の重要性を認識しました。

国立能楽堂では、解説「能楽の楽しみ」を見た後、狂言「柿山伏」、能「安達原」の演目を鑑賞しました。

「能楽の楽しみ」では、実際に能楽の構えを実践し、姿勢を保つ難しさや美しさを体験しました。また、泣いていることを表す所作である「シオリ」について解説を受け、全員で実際に所作を行いました。参加学生同士で感想について話したり、交流したりする姿も多く見られました。

課外教養プログラムでは、今後も日本文化についての知識を身に付け、体験を通して学ぶことのできるプログラムを実施していきます。

【参加学生による感想】

- ・1人で行くには勇気がいるが、日本の伝統文化に触れられる貴重な機会となった。さらに本格的な芸術をお手頃な価格で見ることができてよかった。
- ・卒業後、海外で日本の魅力を発信する仕事に就くので、今回学んだ能楽の知識は役立つと思った。
- ・狂言、能それぞれの違いを感じながら味わうことができた。
- ・事前学習があったお陰で予備知識を入れられ内容の理解に繋がった。



プログラムの様子



「人工知能に心はあるのか ～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考える AI 講座～」

日 時 7月10日（水）16：50～18：30

場 所 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 5階 Y502 教室

概 要

1. 参加者数：6 名
2. 講 師：大阪大学大学院 基礎工学研究科 講師 堀井 隆斗 氏
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 学生が AI に関して主体的に学び、科学技術への関心を高める

4. 内 容：

7月10日、法政大学課外教養プログラム「人工知能に心はあるのか ～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考える AI 講座～」を実施いたしました。

昨今、目覚ましい AI の発展と普及で AI に触れる機会が多くあり、就職先としても IT 企業が文系・理系を問わず人気です。一方で、理系学部は大学の授業で AI の研究分野に触れる機会が多いのに対し、文系学部は AI の応用や社会利用については学ぶものの、AI の研究や AI の基礎に触れられる機会は少ないのが現状です。そこで、本企画は AI の基礎から、最新の研究までを学び、ディスカッションや研究の実践を通して文系学生理系学生問わずに主体的に学ぶ機会を設けることを目的として開催しました。講師は、大阪大学大学院基礎工学研究科の堀井隆斗氏をお招きいたしました。堀井氏は機械学習とロボティクスの技術を融合し、人間のような知能を作り出すことを目標に、認知発達・記号創発ロボティクスに関する研究をされています。

本企画は対面で実施いたしました。講義や、グループディスカッション、チューリングテストの実施、質疑応答という内容でした。

まず、講義では、2 部に分けてご講義いただきました。第 1 部では AI とは何か、AI に関する基本的な知識に加えて、人工知能の関数としての解釈についてさらに言語モデルへ拡張していくことについて教えていただきました。第 2 部では AI と心に関する研究について、心をどう解釈するかということから ChatGPT に代表されるような大規模言語とのつながりに至るまでお話していただきました。

グループディスカッションでは講義内容を踏まえ、「AI に心はあるのか」や「心があると見分けるにはどうすればよいのか」について話し合いました。異なるバックグラウンドを持つ学生たちが意見を活発に交わし合う、とても有意義な場となりました。その後、話し合った内容を発表し、堀井氏からフィードバックを頂きました。

そして、チューリングテストでは、AI か人間か分からない状況で、グループディスカッションにて学生が考えた、心があるかを見分けるための質問しました。質問の答えに対して、この返答は人間らしいか、心がないと思

人工知能に心はあるのか
～文系・理系ともに大歓迎！みんなで考えるAI講座～

**7月10日（水）
開催！！
16:50-18:30**

場所・定員
法政大学
市ヶ谷キャンパス
大内山校舎5階
Y502教室
定員:20人
(参加無料)
対象:本学学部生
(文系学部生大歓迎！もちろん理系の
方も是非お申し込みください！)

プログラム内容
近年、AIが例えるべく発達し
私たちの生活に身近な存在
となっています！
皆さんはそんなAIについて
どんなイメージや知識
を持っていますか？
本講座ではAIの基礎知識を学びながら
「AIに心はあるのか」について
ディスカッションを行います。
講義を通して、
普段享受している
科学技術の魅力について
理解を深めましょう！

講 師
堀井 隆斗氏
(大阪大学大学院基礎工学研究科講師)

2017年大阪大学大学院工学研究科知能・
機械創成工学専攻博士後期課程単位取得退学、博士（工学）。
2020年より現職。東京大学国際高等研究所ニューロインテリジェンス
国際研究機構協力研究員を兼任。
人工知能における身体性や感情の発達原理に興味を持つ。
機械学習とロボティクスの技術と深く融合し
人間のような知能を作り出すことを目標に、
認知発達・記号創発ロボティクスに関する研究に従事。

申し込みはこちらから

うのはどうしてか等、さらに議論が発展していきました。参加学生が、それぞれ意見を持って発言し、どんな意見でも一度受け入れて、意見を深めていく姿勢が非常に印象的でした。

AI や理工学系の研究分野は難しそうだと敬遠されがちですが、今回は講師の堀井氏がとても丁寧に説明してくださり、学生は主体的に非常に楽しく学ぶことができました。

振り返りアンケートでは、参加者全員から、本企画への参加をきっかけに「AI についてもっと自主的に学びたい」と回答がありました。これからも学生の学びのきっかけとなるような企画を作っていきたいと思います。

【報告・KYOPRO スタッフ】中川月海 文学部哲学科 3 年

プログラムの様子



今こそ見直そう！日ごろのマナー ～日本と西洋のマナーの比較から理解を深めよう～

日 時 8月5日（月）11:00～12:40

場 所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階 523-526会議室

概 要

1. 参加者数：9名
2. 講 師：内山幸代氏
(株式会社トリプル・ウィン所属グローバルマナーインストラクター)
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる
「ピアサポート」の実践
 - 日ごろのマナーを見直すこと

4. 内 容：

8月5日、法政大学課外教養プログラム「今こそ見直そう！日ごろのマナー ～日本と西洋のマナーの比較から理解を深めよう～」を実施いたしました。

本企画は、マナーが持つ意味や役割について、西洋のマナーと比較しながら学ぶことで、日ごろのマナーを見直すことを目的としています。

そして、企画を通して、より他者に対して配慮ができるようになり、マナーや作法を習得しやすくなることを期待して、今回の企画を実施しました。

講師は、株式会社トリプル・ウィンに所属し、グローバルマナーインストラクターとして多くの講座に携わる内山幸代氏をお招きいたしました。プログラムは、マナーの成り立ちや意味に関する講義を受けたのち、講義内容を活かした作法の実践やクイズ、質疑応答を行う内容でした。

まず講義では、マナーの歴史・成り立ちや、序列や席次をはじめとしたプロトコルなど、マナーの本質について学びました。そこでは、作法や所作といった形だけに囚われずに、思いやりの気持ちを持つことの重要性についても教えていただきました。さらに、講義の途中では、講師の方が参加者に質問を投げかけたり、グループで質問の答えを考えたり、ワークを通じてマナーに対する理解を深めることができました。

また、作法の実践では、お辞儀の角度や握手の仕方についてレクチャーを受けたのち、ペアでの実践を行いました。握手の際には、手を差し出すタイミングだけでなく、目線や表情など意識することが多く、苦戦しながらも習得しようとする参加者の姿が印象的でした。

そして、質疑応答では、講師の方が幅広い経験をされてきたことから、経験を活かした解説や意見を聞くことができ、非常に有意義な時間になったと思います。

企画実施後のアンケートでは、マナーに関する歴史を学べた点や、実践を交えながら挨拶や握手について学ぶことができた点が好評でした。

大学生になると、アルバイトや就職活動などマナーを意識する機会が増えるなかで、日ごろのマナーについて見直すことは、なかなかないように感じます。しかし、本企画を通して理解を深めながらマナーについて考え直し、新たな視点を見つける貴重な機会になったと私個人としても感じました。

本企画への参加をきっかけに、マナーの習得や周囲の人たちへの配慮ある行動につながることを期待し、今後の



今こそ見直そう！
日ごろのマナー
～日本と西洋のマナーの比較から理解を深めよう～

2024年 **8月5日** (月)
11:00～12:40 (予定)

in 法政大学 市ヶ谷キャンパス
外濠校舎5階 523-526会議室

講師：内山幸代氏
株式会社トリプル・ウィンに所属しグローバルマナーインストラクターとして研修や講座に携わる。外資系・日系航空会社にて18年間国際線客室乗務員であったことから、業務経験から異文化間コミュニケーションに精通している。

対象：本学学部生
定員：20名
参加費：無料

申込方法
ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス（@stu.hosei.ac.jp）をご入力ください。

お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課03-3284-9478
学生センター・課外教養プログラム法政大学協議会後援事業

KYOPRO

2024年度・KYOPRO 活動報告

生活に活かしてもらえれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】若松美月 人間環境学部人間環境学科3年

プログラムの様子



野菜・果物はどこから？ “豊洲市場（青果）の中身”を見てみよう！

日 時 2024年8月27日（火）10:00～12:00

場 所 豊洲市場（東京都江東区豊洲6丁目6-1）

概 要

- 参加者数：17名
- 講 師：
宮澤 信一 氏（株式会社農経新聞社 代表取締役社長）
- 実施目的：
 - フードロス問題や食料自給率問題などの日本の食問題について考える機会の提供
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

8月27日に法政大学課外教養プログラム「野菜・果物はどこから？
“豊洲市場（青果）の中身”を見てみよう！」を実施いたしました。

本企画は普段私たちが食している野菜や果物の流通を実際の現場を見学することで卸売についての理解を深めることにあります。そして、今現在抱えているフードロス問題や食料自給率問題などの日本の食問題について考える機会の提供を目的としております。

当日は（株）農経新聞社 代表取締役社長 宮澤真一 様、（株）東京シティ青果様のご協力のもと実施いたしました。本企画は最初に講師の方による卸売についての講義や動画鑑賞をしたのち、市場にて社員の方々による場内見学の案内を行いました。最後に質疑応答やお仕事の内容についてのお話がありました。

卸売の講義では、法律等で決められていないが日本で売買される食材の75%は卸売市場を通してのことや、市場における出荷者に対する受託禁止など一般的にあまり知られていない事を学びました。また場内見学では、豊洲市場では全館コールドチェーンの設備で季節関係なく温度を一定に保ち食材の鮮度を保っていること、高速配送システムを持つ大型立体冷蔵庫や運搬車両の電動化など環境に配慮しながらも大量の食材を保管配送できることなど学びました。参加者は実際の市場に興味を持ちながら講師の方のお話を真剣に聞き、疑問点は質問するなど意識的に企画に参加することが出来ました。

参加者アンケートでは普段入ることが出来ない場所を見学できて新鮮な体験ができたこと、現場の人のお話を聞くことができて新しい知識が増えたことなど良かった点がありました。しかし当日の企画スタッフの集合場所への案内が不十分で参加者が迷ってしまったことなど反省点もあり次回の企画に向けてより満足度の高い企画を運営できるようにしたいと思います。

最後に私は本企画を通して青果市場の卸売についての理解を深められたと同時に参加者と講師の双方のコミュニケーションが図れたことが、本企画を実施して良かった点だと感じました。参加者が本企画を通じて食について考えるきっかけになれば幸いです。



【報告・KYOPRO スタッフ】山口皆人 理工学部機械工学科2年

プログラムの様子



世界の楽器と音楽文化に触れてみよう！

日 時 2024 年 9 月 9 日（月）10:00～13:00

場 所 国立音楽大学楽器学資料館（国立音楽大学 4 号館 1F）

概 要

- 参加者数：18 名
- 講 師：国立音楽大学楽器学資料館
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 鑑賞と体験を通して世界の楽器の文化を学ぶ。

4. 内 容：

9 月 9 日（月）国立音楽大学楽器学資料館にて「世界の楽器と音楽文化に触れてみよう！」を実施いたしました。今回は人数の関係上、2 つのグループに分かれて時間差を設けて行いました。

本プログラムでは、学芸員の方々に資料館内を案内していただき、また実際に一部の楽器に触れて音を出すことでそれぞれの楽器の仕組みや歴史的・文化的背景について多角的に学ぶことができました。プログラム当日は、学芸員の方への質疑応答の時間以外にも、多くの参加者が積極的に楽器に関する質問をしていたことが印象的でした。質問を通して、より楽器の仕組みや演奏方法の違いについての理解を深めることができましたと感じます。その後、学生同士で鑑賞した楽器についての感想を共有する場を設けましたが、そこでは、メモをもとに印象に残った楽器についての意見交換をしました。参加者からは、「今までに聞いたことのない楽器の分類に驚いた」「楽器を作るための材料も一つ一つ違い、面白かった」などの感想があがりました。

参加者にとって、楽器が持つ背景や文化、現代にある楽器との違いなどを考えるきっかけとなり、非常に有意義な時間になったと思います。多種多様な楽器のご説明をお聞きし、人々が自分たちの文化を大事にする気持ちが楽器にも表れていたこと、楽器一つ一つに演奏のための工夫が施されているということを知ることができました。本プログラムには、楽器を演奏した経験がある人もない人も参加していましたが、互いに楽器というテーマを学び、自己紹介やグループワークで好きな音楽などの話をする中で、学生間の交流も深まったと感じます。参加した学生の皆さんには、楽器を通じて世界各地あらゆる時代の文化を身近に感じていただけたならば幸いです。



【報告・KYOPRO スタッフ】池田希咲（社会学部社会政策科学科 2 年）

プログラムの様子



天気のコミを学ぼう！ 気象研究所見学 in つくば

日 時 2024年9月9日（月）13:30～15:20

場 所 気象研究所（茨城県つくば市長峰1-1）

概 要

- 参加者数：20名
- 講 師：
保坂 征宏 氏（気象研究所 気候・環境研究部 第二研究室 室長）
- 実施目的：
 - 天気予報や現在進行している地球温暖化についてどのように調べているのか、気象の専門組織である気象研究所に実際に訪問し、知識を得ること
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

2024年9月9日（月）に、法政大学課外教養プログラム「天気のコミを知ろう！気象庁気象研究所 in つくば」を実施しました。

本プログラムは私たちの生活において欠かせない天気予報についてどのように調べているのか、また現在進行している地球温暖化について気象の専門家である気象研究所に実際に訪問することを目的として企画しました。

前半は、気象研究所での活動の講演や実際に研究設備の見学を行いました。後半では研究者の保坂氏による地球温暖化の仕組み及び現状、そして今を生きる私たちへの使命について解説していただきました。

研究設備の見学の際、設備の仕組みのみならずその仕組みの由来について深く学ぶことが出来ました。水蒸気量を測定する機械では、水蒸気が多いことでGPSの通信が遅れることを利用して水蒸気量を計測するという逆転の発想に感銘いたしました。

また、地球温暖化がいかに危機的状況であるかを学ぶことが出来ました。地球温暖化の原因をはじめ、私たちのこれからの生き方によって将来の温度がどのように上昇してしまうのかを可視化できたことで、参加学生の環境問題に関する日々の行動を顧みる貴重な時間となったと思います。

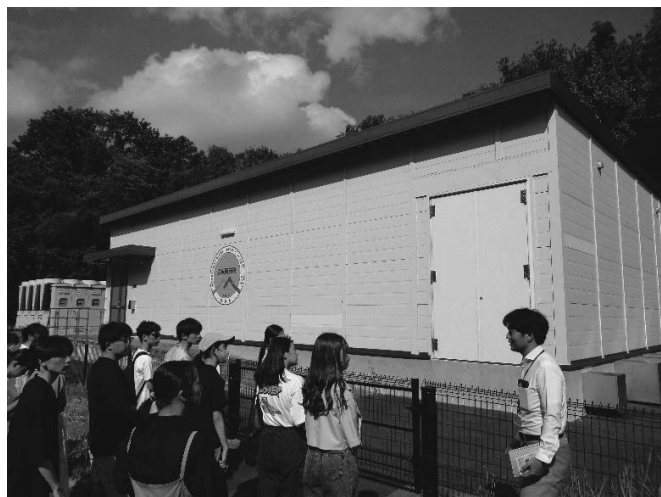
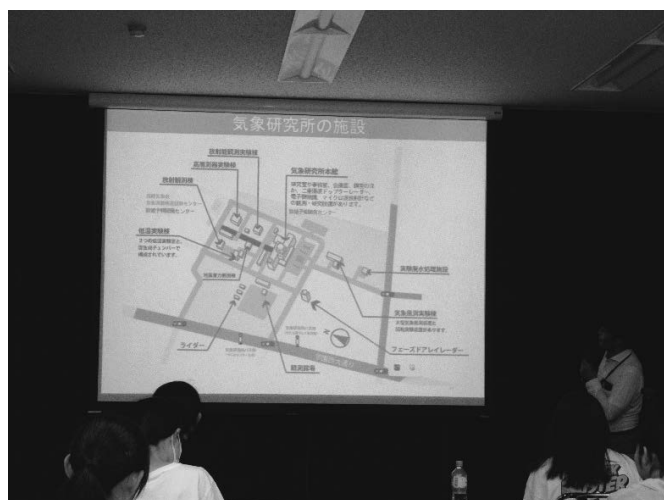
参加学生からは、「文系理系問わずわかりやすい解説で、気象研究所について知ることができた」「普段は入ることが出来ないところへ行くことができて大変興味深かった」「温暖化対策への必要性を改めて感じた」など、多くの感想をいただきました。

今回のプログラムを通して、気象研究所・観測機器・地球温暖化について学ぶことが出来ました。地理や環境を携わる学生にとっては学んだことを実際の現場で見ることができて良い機会となったでしょう。また、他の分野を学ぶ学生にとっては興味の幅が広がる良い機会となったでしょう。特に地球温暖化については未来について考えさせられたため、参加者がエシカルな暮らしを心がけるきっかけとなれば幸いです。



【報告・KYOPRO スタッフ】市川 結梨 生命科学部生命機能学科 2年

プログラムの様子



見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから

日時 2024年9月19日（月）11:00～13:00

場所 ピースワンコ・ジャパンあきる野譲渡センター

概要

- 参加者数：10名
- 講師：ピースワンコ・ジャパンあきる野譲渡センター
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 保護動物や愛護施設の現状を学び、動物愛護への理解を深める

4. 内容：

9月19日（木）、法政大学課外教養プログラム「見て聞いて学ぶ 動物愛護の軌跡とこれから」を実施いたしました。

本プログラムでは、実際に犬の保護活動を行っている「ピースワンコ・ジャパン」の譲渡センターを訪れ、施設の見学をしながら動物保護活動の現状についてお聞きしました。保護動物や愛護施設の現状を学び、動物愛護への理解を深めることを目的として企画されたプログラムとなっています。

本プログラムはピースワンコ・ジャパンあきる野譲渡センターで行われました。普段は施設に訪れた人々と犬の交流の場となっている受付スペースにて講義をしていただいた後、実際に保護され、里親を待つ犬のいる犬舎を見学しました。見学後は各自で動物保護活動についてのクイズやアンケートにお答えいただきました。講義では、どのように犬の保護活動を行っているのかを中心に、活動の歴史や現状の課題をお話ししていただきました。犬舎の見学の際には、参加者が興味深そうに設備を見て回る姿や、質疑応答の際に積極的に質問をする姿が見られました。

参加者の中には犬の飼育経験がある人が多く、自身の経験と重ねながら保護活動についての講義を聴くことで、当事者意識を持ったうえでの理解が促されたのではないかと思います。

今回のプログラムを通して、動物保護活動に興味関心を持ち、その実態や課題に対して「自分にできることは何か」を考えるきっかけになれば幸いです。



学生センター・課外教養プログラム（法政大学後援会補助事業）

見て聞いて学ぶ
動物愛護の軌跡とこれから

“動物保護活動”って何だろう？私たちにできることは？
犬の保護活動を行っている施設を見学しながら人と動物の共生について考えよう

日時 **9月19日（木）** 11:00～13:00

場所 **ピースワンコ・ジャパン あきる野譲渡センター**
（東京あきる野市上代継600番地内「わんだフルネイチャービレッジ」）

対象 **本学学部生**

定員 **先着順20名**

参加費 **無料**

お申込はこちらから

※ログインの際には大学のメールアドレス (@stu.hosei.ac.jp) をご入力ください。

※当日の詳細につきましては、後日メールにてご説明いたします。

お問い合わせ：多摩学生生活課 TEL 042-753-2152

【報告・KYOPRO スタッフ】石原詩乃（社会学部メディア社会学科1年）

プログラムの様子



妖怪の正体に迫る！～古の伝承と現代の姿～

日 時 2024年10月4日(金) 16:50～18:30

場 所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階523～526 短期会議室

概 要

- 参加者数：19名
- 講 師：市川寛也 氏（群馬大学共同教育学部准教授）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 妖怪の成り立ちや変遷を学び、妖怪という視点を通して、改めて日本文化に対する理解を深める

4. 内 容：

10月4日、法政大学課外教養プログラム「妖怪の正体に迫る！～古の伝承と現代の姿～」を実施いたしました。

本企画は、妖怪の成り立ちや変遷を学び、妖怪という視点を通して、改めて日本文化に対する理解を深めることを目的として開催しました。講師は、地域社会と妖怪文化との関係について研究されている、群馬大学共同教育学部の市川寛也氏をお招きしました。

本企画は対面で実施いたしました。アイスブレイク、講義、グループワークという内容でした。

アイスブレイクでは、風景写真を見て、「ここに妖怪が現れるとしたら、どのようなものか」を話し合いました。講義では、妖怪の名前や性質は地域の文化・特性を表していることや、妖怪が物語的な想像力によって生み出されていく過程等を教えていただきました。

グループワークでは、「妖怪がつけられるプロセスを追体験してみよう！」をテーマに行いました。「グループの1人が妖怪の写真を見ながら口頭で説明し、他のメンバーは聞いた情報を元に妖怪の姿をイメージして絵に表現する」という内容です。妖怪は奇天烈な姿をしており、学生はどう言葉にして伝えるか苦戦していました。出来上がった絵は似ているものもあれば、全く異なるものもあり、伝承のずれによって姿を変える妖怪の変遷を体感できました。グループの中でコミュニケーションが活発に行われ、笑いも起こるなど大いに盛り上がりました。企画後アンケートでは、「ワークショップを通じて伝承というものの本質を知れたような気がした」「妖怪がどう成り立っていくのかについて詳しく知ることができて面白かった」と回答がありました。

妖怪は、アニメや漫画で触れるキャラクターのイメージが強いですが、日本の地域文化・特性から生まれ、人々の伝承のずれによって変遷しているという、日本文化との関わりについて学びを深めるきっかけとなりました。

【報告・KYOPRO スタッフ】津嶋千早 法学部政治学科4年



プログラムの様子



東京六大学野球応援(東大戦)

日時

事前学習：

2024年10月 8日(火)・11日(金)

観戦日：

2024年10月13日(日) 11:00 試合開始

場所

明治神宮球場

概要

- 参加者数：53名
- 実施目的：
 - 「法政スポーツ」応援を通じた法政大学への帰属意識の涵養
 - 学生同士の交流のきっかけづくり



4. 内容：

10月13日(日)神宮球場にて学生センター・課外教養プログラム「東京六大学野球応援(東大戦)」を実施しました。

今回のプログラムは「法政スポーツ」の応援を通じて、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけづくりを目的として実施しました。

事前学習では、応援団の方々にご協力いただき、応援マナーや応援団リーダー部・チアリーダー部・吹奏楽部それぞれの応援の見所紹介、注目選手紹介、校歌斉唱など応援の仕方をレクチャーいただきました。初めて六大学野球を観戦する学生や、普段校歌に触れる機会が少ない学生にとって、六大学野球の応援に一足早く触れる良い機会となりました。

試合は法政大学と東京大学どちらも譲らない試合展開でしたが、東京大学の攻勢によって残念ながら、2-3で負けてしまいました。

参加した学生は、野球観戦を楽しむだけでなく、徐々に応援団と一体となって応援を行う姿が印象的でした。

また、点を取った際は「スクラム校歌」で応援席全体が一つになりました。

参加した学生からは「応援の仕方や注目選手について教えていただいたので、当日スムーズに楽しめた。」「応援団やチアリーダー、吹奏楽の皆さんがピンチの場面やうまくいかなかった場面でも、いつもポジティブな声掛けをしていたのがとても印象的で自分もそのようなマインドを大切にしたいと思った。」「今まであまり法政大学の学生であるという実感が湧かなかったのですが大勢の学生と一緒に観戦することで所属している実感が湧きすごく良かったな思いました。」とのコメントがあり、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけとすることができました。

課外教養プログラムでは、今後も「法政スポーツ」の応援プログラムを実施していきます。

プログラムの様子



誰でも楽しめる！ 生涯スポーツ『インディアカ』を体験しよう

日 時 2024年10月24日（木）18:30～20:00

場 所 小金井キャンパス東館2階体育館

概 要

1. 参加者数：10名

2. 講 師：

小松原 麻紗子 氏

（一般社団法人日本インディアカ協会指導技術委員長）

武田 孝志 氏

（一般社団法人日本インディアカ協会指導技術委員）

斉藤 諭 氏

（一般社団法人日本インディアカ協会指導技術委員）

3. 実施目的：

- インディアカを参加者に体験してもらうことで、生涯スポーツの楽しさを学んでもらうこと
- インディアカについて理解を深めてもらうこと
- 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

2024年10月24日（木）に、法政大学課外教養プログラム”誰でも楽しめる！生涯スポーツ「インディアカ」を体験しよう！”を実施いたしました。

本プログラムはインディアカを参加者に体験してもらうことで、生涯スポーツの楽しさを学んでいただくことに加え、インディアカについて理解を深めてもらうことを目的として企画されました。

当日は日本インディアカ協会の方々が最初にインディアカの歴史について主に講義をし、その後グループワークと質疑応答を実施しました。

講義では、インディアカの成り立ちやルール、インディアカの特徴についての説明をしてくださいました。

グループワークでは、体育館で実際に参加者がインディアカを体験しました。インディアカは特殊なボールを使いプレイするので、最初は慣れるためにラリーをしあい、その後2つのチームに分かれ、ミニゲームを行いました。

参加者学生からは、インディアカの歴史について知ることができてよかったという声や、コミュニケーションを取り合いながらスポーツを楽しむことができたという声が散見されました。

今回のプログラムを通して、生涯スポーツの特性や面白さを知るきっかけとなれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 柏原 育恵 理工学部経営システム工学科 1年



プログラムの様子



法政サッカー部を応援しよう！

日 時 2024 年 11 月 10 日（日）13:00～16:15

場 所 法政大学城山サッカー場

概 要

- 参加者数：26 名
- 協 力：法政大学サッカー部
- 実施目的：
 - 「法政スポーツ」応援を通じた法政大学への帰属意識の涵養
 - 多摩キャンパス活性化
 - 学生同士の交流のきっかけづくり

4. 内 容：

11 月 10 日（日）法政大学城山サッカー場にて学生センター・課外教養プログラム「法政サッカー部を応援しよう！」を実施しました。

今回のプログラムは「法政スポーツ」の応援を通じて、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけづくり、多摩キャンパス活性化を目的として実施しました。昨年に引き続き 2 回目となる本プログラムは、多くの申し込みがあり、ポスターを見ながら、楽しみという学生の声をよく聞いていました。

当日はサッカー部所属の年生からサッカー観戦のポイントや今大会の概要、注目選手などについて詳しい説明があり、各選手のプロフィールや J リーグ内定選手の情報も掲載されているサッカー部作成のリーフレットが全員に配布されました。また、応援団チアリーディング部による応援も行われ、試合前から期待が高まりました。

今回の相手は拓殖大学、関東リーグ 1 部昇格に向けて負けることは許されない試合でした。試合は白熱した試合が続きましたが、前半に法政が 2 得点を上げ、観客席も大いに盛り上がり前半が終了しました。ハーフタイムでは、拓殖大学とのぐるぐるバット PK 対決も行われ、会場が笑いに包まれました。エンドの変わった後半は、相手に押し込まれる展開が続きましたが、本学キーパーのビッグセーブで大いに盛り上がります。1 得点は許したものの 2-1 で勝利し、終始笑顔に包まれたプログラムとなりました。

また、会場の城山サッカー場は客席である石段のすぐ前がサッカー場となっており、選手たちのプレーを間近で見ることができました。サッカー部の応援もすぐ横だったので、緊張感もありながらサッカー部と一緒に応援をしている気持ちになることができ、参加者の満足度もとても高いプログラムとなりました。

参加者アンケートでは、「みんなで応援できて楽しかった」「サッカー観戦自体もハーフタイムの PK 対決もどちらも楽しかった」「今までの観戦にない近さで楽しかった」という声を聞くことができました。

多摩キャンパスにはサッカー部のほかにも多くの体育会がありますので、今後も多摩キャンパス活性化の意味も込めていろいろな体育会の応援プログラムを実施したいと思います。ぜひご参加ください。



学生センター・課外教養プログラム（法政大学教養支援事業）

法政サッカー部を応援しよう！

試合日時・場所
11月10日（日）
◇時間 13:00集合 14:00試合開始
◇場所 法政大学多摩キャンパス
多摩キャンパス正門に集合して、城山サッカー場まで移動します（徒歩10分程度）

参加費 無料
対象 本学学生 ※定員50名

試合
第98回 関東大学サッカーリーグ戦 2部
法政大学 × 拓殖大学

申込方法
右のQRコードよりお申し込みください。
※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス（@stu.hosei.ac.jp）をご入力ください。

★Point①
サッカー部よりサッカー観戦の仕方、注目選手など見どころ紹介！

★Point②
参加者全員に法政大学オリジナルタオルプレゼント！

お問合せ：多摩学生生活課 ☎ 042-783-2152

【報告】学生センター多摩学生生活課 佐藤貴広

プログラムの様子



パリオリンピックの話を聞こう！ ～フェンシングの魅力に迫る～

日 時 2024 年 11 月 12 日（火）12:30～13:10

場 所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎 1 階 メディアラウンジ

概 要

1. 参加者数：約 35 名
2. 講 師：尾崎世梨 氏（法学部 4 年）※実施当時
3. 実施目的：
 - 2024 年 8 月に開催されたパリオリンピックに出場し、銅メダルを獲得した尾崎選手の報告会
 - フェンシングの魅力に迫ることで「オリンピック競技」をより身近に感じてもらうこと
 - 「法政スポーツ」への興味関心を高めること

4. 内 容：

11 月 12 日（火）市ヶ谷キャンパス外濠校舎 1 階メディアラウンジにて、学生センター・課外教養プログラム「パリオリンピックの話を聞こう！～フェンシングの魅力に迫る～」を実施しました。

今回のプログラムは 2024 年 8 月に開催されたパリオリンピックに出場し、銅メダルを獲得した尾崎選手の報告会、またフェンシングの魅力に迫ることで「オリンピック競技」をより身近に感じてもらうこと、さらに「法政スポーツ」への興味関心を高めることを目的として実施しました。

パリオリンピックでのエピソードや、フェンシングのフルーレ・エペ・サーブルの違い等の話を聞き、参加した学生が競技スタイル等の質問をしている姿が印象的でした。

参加した学生からは「オリンピックでの話や競技スタイルなどの貴重な話が聞けて良かったです。」「尾崎選手との距離が近かった。」「当日の質問コーナーがいつも聞けないような話を聞けて面白かったです。」とのコメントがありました。企画後のアンケートでは「観覧してスポーツを行いたい・応援に行きたい」との回答は思うが 100%と、フェンシングと法政スポーツへの興味関心を高めるきっかけとすることができました。

課外教養プログラムでは、今後も「法政スポーツ」の応援プログラムを実施していきます。

パリ2024
オリンピック競技大会
の話を聞こう！
～フェンシングの魅力に迫る～

尾崎世梨選手（法学部4年）
フェンシング女子サーブル団体
銅メダル

日本女子サーブルチームは史上初のメダル取得という快挙を成し遂げました。尾崎選手からオリンピックでのエピソードや競技紹介の話をして頂きます！

11月12日（火）
12:20～13:10

外濠校舎1階
メディアラウンジ

予約観覧席を25席
限ります。こちらは
QRコードより参加し
ます。（当日席も可
ります）

KYOPRO 学生センター・課外教養プログラム
（法政大学学生生活部）
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課
TEL: 03-5264-9481

プログラムの様子



バレエの魅力とその歴史について知ろう！

日 時 2024 年 11 月 15 日（金）13:00～14:40

場 所 多摩キャンパス総合棟 4 階多目的教室

概 要

1. 参加者数：15 名
2. 講 師：永井玉藻 氏（白百合女子大学等非常勤講師）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - バレエの魅力と歴史を通して、異なる時代や文化的背景について理解し、現代社会とのつながりを発見すること
4. 内 容：

11 月 15 日、法政大学課外教養プログラム「バレエの魅力とその歴史について知ろう！」を実施いたしました。

本プログラムでは、現代においてもポピュラーカルチャーやファッション、音楽など多くの分野に影響を与えている「バレエ」に焦点をあて、その魅力や歴史を通して異なる時代や社会の文化的背景を深く理解し、現代社会との繋がりを発見することで新たな学びを得ることを目的として実施しました。

講義では、講師の永井玉藻氏にバレエの歴史やその魅力について実際の体験を含めながらお話いただきました。バレエの起源から世界的に注目されるようになった経緯や時代ごとの作品の特徴などを分かりやすく解説していただきました。講義中には実際に足のポジションをとり体勢の保持の難しさ、そして動きの優雅さを学ぶこともできました。また、「白鳥の湖」の抜粋映像の鑑賞を通して、細かな表現方法や作品のみどころを解説していただきました。映像鑑賞後には、グループで感想共有をおこない、活発な意見交換を通してバレエの魅力について深め合う機会になりました。

参加者は、バレエ初心者の方からバレエを習ってきた方など様々な層の方にお越しいただきました。講義を通してバレエに対しての理解度が上がったことで映像鑑賞後のグループワークでは想像を上回る活発な意見交換が行われました。永井氏への質疑応答の際も、短い時間ながらも多くの質問が出ており、講義終了後も永井氏に直接質問をしている参加者も見受けられ、非常に有意義な時間となったと思います。

バレエ初心者の参加者にとっては、普段あまり馴染みのなかったバレエというものを知る貴重な機会となったと思います。バレエに馴染みのある参加者にとっては、更にバレエについて知り、新たな学びを得る機会となったのではないかと思います。参加者の学生の皆さんには、本プログラムで学んだことが新たな世界との出会いに繋がれば幸いです。



学生センター・課外教養プログラム（法政大学後援会補助事業）

バレエの魅力
と
その歴史について知ろう！

NOVEMBER 15TH
13:00~14:30

場所 法政大学 多摩キャンパス
総合棟4F多目的教室

対象 本学学部生
定員30名

参加費 無料

講師 永井 玉藻先生
白百合女子大学
慶応義塾大学
桐朋学園大学非常勤講師

お申し込み方法

※お申し込みをする際は
ご自身の法政大学のメールアドレス
（_@STU.HOSEI.AC.JP）をご利用下さい。
お問い合わせ 多摩学生生活課 ☎ 042-783-2152

プログラムの様子



最新技術が叶えた宇宙食の進化!! ～宇宙食の歴史を学ぼう～

日 時 2024 年 11 月 20 日 (水) 17:00～19:00

場 所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 5 階 529-530 会議室

概 要

- 参加者数：18 名
- 講 師：
二川 健 氏（徳島大学宇宙医学・栄養学研究センター センター長）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 普段馴染みのない「宇宙食」について理解を深めるきっかけを提供すること
 - 宇宙全般への興味関心を高めてもらうこと

4. 内 容：

11 月 20 日、法政大学課外教養プログラム「最新技術が叶えた宇宙食の進化！～宇宙食を知ろう～」を実施いたしました。

本企画は、宇宙食の歴史や最新技術等を学び、実際に宇宙食を試食することで、普段馴染みのない「宇宙食」について理解を深めるきっかけを提供すること、また、「宇宙食を知ること」を通じて、参加学生に「宇宙全般への興味関心を高めてもらう」ことを目的として開催しました。講師は徳島大学の宇宙医学・栄養研究センターセンター長を務める、二川健氏をお招きしました。

アイスプレイクでは、宇宙日本食でないものや、宇宙日本食認証基準を満たし、認証されている食品の品目数を選ぶクイズを行いました。

講義では、宇宙で起こる身体への負荷問題を「機能性宇宙食」でどこまで解決できるのかを学びました。さらに、二川先生が大豆ムースを開発するにあたり、宇宙で起こる筋萎縮を誘発する物質を特定し、それを阻害する物質を活用していることが印象に残りました。

試食した大豆ムースの味は、大豆の中に甘味が入っていて、健康的に甘さを摂取したい人に向いているような味でした。様々な果実のソースをかけることによって、違った味を楽しむことができました。

また、宇宙食だけではなく、災害食との共通点・相違点や各国の宇宙開発状況の比較といった広い視点でのお話をいただき、視野を広げることができました。

グループワークでは、参加学生がどのような宇宙食が生み出せそうか、講義で学んだことを活かして話し合っていました。宇宙でも食べたくくなるような宇宙食や健康面を重視した宇宙食など、様々な面からアイデアが生まれ、議論が活発になっていました。提案した宇宙食に対して二川先生からその場でフィードバックをいただき、より一層理解が深まったと思います。

企画後アンケートでは「あまり知識のなかった状態で参加しましたが、教授の丁寧な説明で楽しく学べました。グループワークもしやすい雰囲気だったので意見をちゃんと出すことができました。」「宇宙食の展開や実際の宇宙ステーションの様子など知らないことを自分で実際に考えて、教授のフィードバックがすぐにもらえるのが面



2024年度・KYOPRO 活動報告

白かったです。」と回答がありました。

宇宙空間における体への影響を食生活という視点から、宇宙食、また宇宙全体について学びを深めるきっかけとなりました。

【報告・KYOPRO スタッフ】 今井マリアン 経営学部経営学科 1 年

プログラムの様子



危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～

日 時 2024 年 11 月 21 日 (木) 15:30～16:40

場 所 オンライン配信及びオンデマンド配信

概 要

1. 参加者数：289 名
2. 講 師：鬼頭英明 氏（法政大学スポーツ健康学部教授）
3. 実施目的：薬物の知識と心身に与える影響を正しく理解し、誘惑を断る意志確立と正しい規範育成を支援する。

4. 内 容：

2024 年 11 月 21 日に課外教養プログラム「危険ドラッグの恐ろしさ～薬物乱用防止セミナー～」を実施しました。

本プログラムは、2012 年度より実施しているプログラムで、本年度は多摩キャンパスでは対面開催、市ヶ谷・小金井キャンパスではオンライン開催としました。保健教育学を専門とする本学スポーツ健康学部の鬼頭先生をお招きし、大学生の薬物への意識や実態、健康への影響、薬物依存のきっかけなど様々な角度から薬物の危険性をお話しいただきました。プログラム終了後は大学ホームページ上で期間限定のオンデマンド配信を行い、各学生団体の代表者は所属員への共有用として活用しました。

以下、学生アンケートです。（記された文面のまま記載）

- ・一回の使用がその後の依存症につながるなど、軽い気持ちで手を出していいものではなく、社会的に孤立することにつながるため、自分だけでなく周りの人も止められるようになろうと感じた
- ・今回の講義で、薬物乱用の恐ろしさを知ることが出来ました。また今までで何度か高校などで薬物乱用セミナーを受けてきましたが、今回初めてしった知識もあるのでとても有意義な時間になりました
- ・以前にも薬物に関する説明会に参加したことがあったが、近年の薬物乱用に関する問題や海外での薬物使用なども取り上げてくれたので、新たな情報も知ることができたため良かったです。
- ・薬物に関して、ニュース等で目にすることはあっても、普段の生活の中でなかなか深く考える機会がないので、良い機会となった。

薬物は私たちの非常に身近に存在するものだ改めて実感した。

今回のセミナーを通して自分自身はもちろんのこと、自分の身の回りの人にも積極的に薬物の危険さを広めていく必要があると感じた。

- ・身近に薬物がないため実感がわくことはなかなかありませんでしたが、セミナー内での取引の写真を見たり他大学での例などを聞いたりするとそう遠くない話なのだと感じました。サークルという団体として断固として薬物の使用を認めない方針を固めたいと思いました。

また、大麻が合法である国への旅行や留学への注意喚起も必要であると感じました。

- ・初めて知ったことが沢山あって勉強になりました。マリファナなどは、海外では合法のところもあるが、より危険な薬物への入り口になるという意見を聞いて、マリファナなどでも規制をかけるべきだと思いました。
- また、留学や旅行などで海外に行った時に薬物を吸ってしまうなどがあるというのは考えたこともなくて驚きで



した。

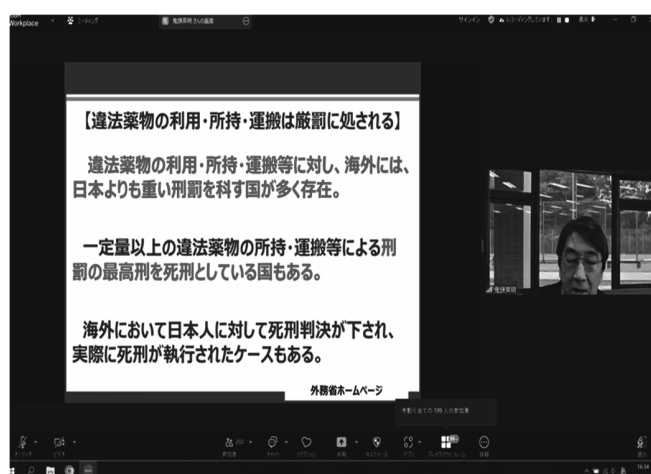
・自分には全然関係ないことだと思っていましたが、話を聞いて思った以上に身近で起きているということを実感しました。

部活動など、集まりで広まることが多かったので、サークル活動を続けるために今回学んだことを活かして行こうと思います。

・私たちの周りには薬物の危険が思っているよりも潜んでいるということがわかった。

たとえ、薬物を勧められたり、身の危険を感じたりした場合には、強い意志を持ってはっきりと断る必要があると感じた。

プログラムの様子



作って学ぶ食品サンプル ～サンプルの果たす役割や作り方～

日時 2024年11月23日(土) 10:30～12:15

場所 元祖食品サンプル屋 合羽橋店

概要

- 参加者数：12名
- 講師：中井敦氏（株式会社岩崎 取締役）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 食品サンプルの魅力を感じ、興味関心を持ってもらうこと

学生センター・課外教育プログラム(法政大学後援会補助事業)

製作体験を通して食品サンプルについての理解を深めましょう！



11月23日(土)
10:30～12:15

場所：元祖食品サンプル屋 合羽橋店

10:15までに
つくばエクスプレス新橋駅改札前に集合

対象：本学学部生

定員：14名

料金：無料

※注意事項
お湯に手を入れるため、熱湯品等の水につけたくないものは外していただきます

企画概要

多くの人が日々目にしている食品サンプル。みなさんはそんな食品サンプルがどのように作られているか知っていますか？本企画では食品サンプルが果たす役割とそのクオリティを講師と製作体験によって学ぶことができます。果たさるべき身近な食品サンプルの魅力を発見してみませんか？

講師情報

株式会社岩崎 取締役 中井敦氏
法政大学人間環境学部を卒業した後に(株)岩崎に入社。営業部、製作部、総務部を経て広報担当として新事業の製造小売ブランド「元祖食品サンプル屋」の立ち上げに参画。以降、製造小売事業の運営に携わり、2018年より現職。



お申込み：右のQRコードからGoogleフォームを入力
ロケインの際は法政大学のメールアドレス(@hosei.ac.jp)をお使いください
お問い合わせ：市ヶ谷学生生活課(03-3264-9484)



4. 内容：

11月23日、法政大学課外教育プログラム「作って学ぶ 食品サンプル～サンプルの果たす役割や作り方～」を実施いたしました。

本企画は、食品サンプルの果たす役割やその歴史についての講義および実際に製作体験をする機会を提供することで、参加した学生が食品サンプルの魅力を感じ、興味関心を持ってもらうことを目的として実施しました。

講師として株式会社岩崎の代表取締役である中井敦様をお招きしました。企画前半では中井様より食品サンプルの果たす役割やその歴史、作り方などについて講義をしていただき、後半では実際に食品サンプルの製作体験を行いました。

前半の講義では、特に食品サンプルの果たす役割についての講義が印象に残りました。料理名からはイメージが難しい料理などをお客さんがすぐに視覚的に理解できるようにするという大きな役割を担っていることに大変感銘を受けました。また事前に参加者から募集した質問についても丁寧に答えていただきました。

製作体験では、エビフライとさつまいもやレンコンといった野菜の天ぷら、そしてレタスの食品サンプルを作りました。社員の方が1対1で丁寧に教えてくださり、初めてでも難なく製作することができました。作成した食品サンプルは、衣のつき方や大きさなどに個性がよく出ており、その違いなども含めて参加者全員が楽しんでいる印象でした。

企画後のアンケートでも、「講義の内容が面白く、また事前に集めていた質問をたくさん回答していただけて満足度が高かったです」「ずっと気になっていた動きのある食品サンプルの作り方を知ることができた」など多くの好意的な声をいただくことができました。

食品サンプルの果たす役割とその重要性について、学びを深めるきっかけとなりました。

本企画で学んだことが、今後の学生生活、また、社会人になった後の生活で役立つものとなることを期待します。

【報告・KYOPRO スタッフ】鹿中蒼太 経営学部市場経営学科1年

プログラムの様子



紅葉の高尾山ハイキング

日 時 2024 年 12 月 1 日（日）9:00～15:00

場 所 高尾山

概 要

- 参加者数：15 名
- 講 師：公益社団法人八王子観光コンベンション
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 高尾山の歴史・文化と植生について学びつつ、秋の紅葉で色づいた高尾山を楽しむこと
- 内 容：

12 月 1 日（日）に法政大学課外教養プログラム「高尾山ハイキング」を実施いたしました。



本プログラムは、ガイドの案内のもと約 1300 年に及ぶ高尾山の歴史・文化と植生について学びつつ、秋の紅葉で美しく色づいた高尾山を楽しんでいただくことを目的としています。

本プログラムのガイドとして、八王子観光コンベンション協会より 3 名のハイキングガイドをお招きいたしました。プログラムは 3 つの班に分かれて行われ、学生約 5 名とガイド 1 名を 1 つの班として実施しました。登山路は 6 号路を、下山路は 1 号路を使用し、お昼休憩を山頂にて 1 時間ほど取りました。

上りの 6 号路は、かなり険しい登山路となっていました。狭くぬかるんだ道、木の根が張り出した道、水が湧き出した道など、険しい道が続きましたが、その分自然の力強さや美しさなどを直接近くで見る貴重な機会となりました。また、途中でガイドが危険な場所やその対応策を事前に教えてくださったので、安全に登山を行うことができました。

山頂では各班ごとに昼食を取りました。標高 599m から見える雄大な景色を楽しみつつ、ともに山を登った仲間と過ごす昼食の時間はとても楽しいものとなりました。また、山頂付近の紅葉が美しい紅葉色になっており、高尾の紅葉を楽しむこともできました。

下りの 1 号路では、高尾山薬王院のような歴史的建造物が多くあり、ガイドから高尾山が修行のために開かれた山であること、高尾山では神仏習合が維持されていることなどをご説明いただきました。また、ケーブルカーの駅周辺では高尾山の名物である「団子」が販売されていました。紅葉の時期で観光客が多かったこともあり購入することはできませんでしたが、次回高尾山を訪れた際にはぜひ食べてみたいと思います。

プログラム後のアンケートでは、高尾山について普段知ることができないことをガイドの方に教えていただいた

2024年度・KYOPRO 活動報告

点で、とても好評でした。

本プログラムを通じて、高尾山についてさらに興味を持つきっかけになれば幸いです。

また、今後も本プログラムのような自然や歴史に触れることができるプログラムを提供していきたいと思います。

今後とも、よろしくお願いいたします。

【報告・KYOPRO スタッフ】川本友希（経済学部国際経済学科4年）

プログラムの様子



教育ボードゲームのデザインワークショップ

日 時 2024 年 12 月 7 日（土）12:00～17:00

場 所 多摩キャンパス総合棟 4 階多目的教室

概 要

- 参加者数：11 名
- 講 師：財津康輔 氏（日本大学特任教授）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 教育用ボードゲームを制作する過程を通じて、創造力やチームワークを養い、教育や学習の新しい方法を探求すること

4. 内 容：

2024年12月7日、多摩キャンパス総合棟4階多目的教室にて、課外教養プログラム「教育ボードゲームのデザインワークショップ」を実施いたしました。



本プログラムは、参加学生がグループで教育用ボードゲームを制作する過程を通じて、創造力やチームワークを養い、教育や学習の新しい方法を探求することを目的としています。

当日は、「日本ボードゲーム教育協会」の財津様と松本様のご協力のもと実施いたしました。最初に講師の方による教育用ボードゲームやボードゲーム教育についての講義を受けたのち、3、4人のグループに分かれて実際に教育的視点を持ったボードゲームを各グループ内で発案し、実際にプロトタイプの製作を行いました。最後にテストプレイを行い、講師から講評をいただきました。

講義では、アイスブレイクから始まり、教育ボードゲームの種類やボードゲーム教育の有益性、教育ボードゲームの制作などに関して学びました。参加学生は講師のお話を真剣に聞き、主体的にプログラムに参加しました。グループワークでは、グループに分かれて教育テーマを決め、互いに議論を重ねてゲームデザインの構想を決めていきました。その後は、講師の方々にアドバイスをいただきながら、全てのグループがプロトタイプを完成させることができ、貴重な体験を提供できたかと思います。

参加者アンケートでは、「講師の方が豪華で、本格的な学びを実践で得られた」「作るところから遊ぶところまで一連の流れを体験することができた」など好評をいただくことができました。

最後に、私は本プログラムを通してボードゲーム教育の有益性についての理解を深められ、また教育に関する新たな知見を得ることができました。それと同時に、グループワークでは、各グループ内だけでなく参加者と講師との間でもコミュニケーションが生まれ、そういった意見交換の中で、よりよい製作物を作ることができたことが、本プログ

2024年度・KYOPRO 活動報告

ラムを実施して良かった点だと感じました。参加者が本プログラムを通じて、未来の学習方法に対する新しい視点を得ることができたら幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】原田一史（社会学部メディア社会学科 1 年）

プログラムの様子



AFRICAN PRINTS PROJECT

～作って学ぶアフリカンプリント～

日 時 2024 年 12 月 9 日（月） 13:10～14:50

場 所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 5 階 523-526

概 要

- 参加者数：13 名
- 講 師：
仲本 千津 氏（株式会社 RICCI EVERYDAY 代表取締役）
- 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - アフリカンプリントへの理解を深めたり、異国のデザインや歴史に興味を持ったりすること



4. 内 容：

12 月 9 日、法政大学課外教養プログラム「AFRICAN PRINTS PROJECT ～作って学ぶアフリカンプリント～」を実施いたしました。

本企画は、講師の講義とアフリカンプリントを用いた製作体験をする機会を提供することで、参加した学生がアフリカンプリントへの理解を深めたり、異国のデザインや歴史に興味を持ったりすることを目的として実施しました。

講師としてアフリカンプリントを用いたバッグやインテリアを取り扱う会社 RICCI EVERYDAY の代表取締役を務めていらっしゃる、仲本千津様をお招きしました。

企画前半では仲本様よりアフリカンプリントの特徴や歴史、アフリカンプリントが直面する課題などについて講義をしていただきました。講義後はグループディスカッションと実際にアフリカンプリントの端切れを用いてうちわの製作体験を行いました。

講義に入る前に導入として簡単なミニクイズを行っていただきました。アフリカンプリント 1 つ 1 つの模様に込められた意味についてのクイズで、参加者は独特な模様やその意味を知ることができました。講義の内容は、アフリカンプリントの概要や製作工程、アフリカンプリントの生まれた経緯、また文化の登用が大きな問題となっていることなどをご教授いただきました。この講義を通して「そもそもアフリカンプリントについて知らなかったの、模様の意味や製作の背景をすることができて良かった。」「日本にはない発想から生まれるデザインの多様さやグローバル化に伴う課題についてのり顔が深まった」（企画実施後のアンケートより）などという声をきくことができ、参加者にとって新たな学びを得ることができた時間になりました。

講義の後は、「アフリカンプリントの魅力を広めるにはどうすればよいか」というテーマでグループディスカッションを行いました。SNS を使用する、有名人に宣伝してもらおうという意見のほか、チョコレートのパッケージに取り入れる、オリンピック種目のスポーツで使うユニフォームや道具に採用するというようなユニークなアイデアが飛び交い、活発な意見交換ができていました。

最後はアフリカンプリントの端切れを使用し、うちわの製作体験を行いました。限られた時間で参加者は思い思

2024年度・KYOPRO 活動報告

いのうちわを作成していました。ただ講義をきくだけでなく、実際にアフリカプリントに触れ、その模様を活かすにはどうすればよいか考えながら製作することで、アフリカプリントの魅力を実感できたのではないかと思います。

本企画をきっかけに、参加学生が異国のデザインや文化により興味をもつようになれば幸いです。

【報告・KYOPRO スタッフ】 笹本愛佳 文学部英文学科 2 年

プログラムの様子



甲子園ボウル応援ツアー

日 時 2024 年 12 月 15 日（日）

場 所 阪神甲子園球場

概 要

- 参加者数：30 名
- 協 力：法政大学アメリカンフットボール部
- 実施目的：
 - 「法政スポーツ」応援を通じた法政大学への帰属意識の涵養
 - 学生同士の交流のきっかけづくり

4. 内 容：

12 月 15 日（日）阪神甲子園球場にて、学生センター主催課外教養プログラム「甲子園ボウル応援ツアー」を実施しました。

今回のプログラムは「法政スポーツ」の応援を通じて、法政大学への帰属意識の涵養や学生同士の交流のきっかけづくりを目的として実施しました。

甲子園ボウルは全日本大学アメリカンフットボール選手権大会の決勝戦で、今回法政大学は 2 年連続 20 回目の出場となり、立命館大学と対戦しました。

当日はアメリカンフットボール経験者や初めて観戦する学生も複数いましたが、アメリカンフットボール部が作成したオリジナルパンフレットを見たり、経験者にルールの確認をしたりしながら、法政大学関係者とともに大きな声援を送りました。

序盤に立命館大学にリードを許しながらも、終盤 3 点差まで迫る激闘を繰り広げ、とても盛り上がりました。残念ながら日本一にはあと一歩届きませんでしたが、アメリカンフットボール部の激闘に感動する姿が印象的でした。

学生からは「人生で初めてアメリカンフットボールを見ることができ新鮮な経験であった」、「優勝の瞬間を観ることはできなかったが、緊迫した好ゲームを観ることができた」、「卒業前にアメフト部を応援できて、本当によかった」「最高に熱い試合を見られて幸せだった」といった声が寄せられました。

今後も、学生センターはスポーツ応援企画を通して、学生同士の繋がり・交流をサポートする企画を実施していきます。

学生センター・課外教養プログラム（法政大学後援会補助事業）

甲子園球場で声援を送ろう！

法政大学 ORANGE VS 立命館大学 PANTHERS

関東 3 位・2 年連続出場 初め日本一 関西 1 位・9 年ぶり出場

全日本大学アメリカンフットボール選手権 決勝

甲子園ボウル応援ツアー

12/15 日

※雨天決行

参加費 **6,000 円**（チケット代・新幹線代込み）

【日程】

- 8:00 東京駅八重洲中央口前広場集合
- 13:05 阪神甲子園球場 試合開始
- 21:00頃 東京駅解散

※ツアーへの途中参加・途中離脱はできません
※詳しい行程は別途参加者宛にメールでご案内します！

【申込】こちらのQRコードから

※ログインの際に使用するメールアドレスは、ご自身の法政大学のメールアドレス（@stu.hosei.ac.jp）をご入力ください。

フォーム回答後、各キャンパス学生生活課にて6,000円分の往復券を下記締切までにお支払いください。

【支払締切】12/11（水）16:00
支払手段：12/9（月）～11（水）10:00～18:00

お問い合わせ：多摩学生生活課 TEL042-783-2152

【報告】学生センター多摩学生生活課 佐藤貴広

プログラムの様子



三曲体験教室-日本文化を学ぼうシリーズ-

日 時 2024年12月20日(金) 17:00~19:00

場 所 市ヶ谷キャンパス外濠校舎5階 和室

概 要

- 参加者数: 10名
- 講 師: 法政大学三曲会(法政大学登録団体)
- 実施目的:
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - なかなか体験出来ない和楽器を体験してもらい、日本の伝統文化に対する理解を深める、関心を持つきっかけを作る



4. 内 容:

12月20日(金)、法政大学課外教養プログラム「三曲体験教室」を実施しました。本企画は、三曲(三味線・箏・尺八)鑑賞と、体験を通じた伝統芸能に関する教養教育を目的として実施しました。

プログラムでは、本学の登録団体である三曲会が講師となり、三曲の歴史についてや楽器の紹介があった後に、三曲会の皆さんによる演奏を聴きました。箏・尺八・三味線の順でパート毎に演奏をして頂き、和楽器ならではの音色を楽しむことが出来ました。パート毎の演奏の後には、三曲合奏を行って頂きました。1つ1つの楽器が合わさると迫力のある演奏となり、参加学生は演奏を楽しんでいる様子でした。

その後は、三味線、箏、尺八の3グループに分かれ、楽器に実際に触れて演奏体験をしました。三曲会の皆さんが参加学生について体験のサポートにあたり、お互いに楽しそうに楽器を演奏していました。

参加学生からは、「ずっと気になっていた尺八に触れられたことが特に良かったです。」「3つも楽器を演奏できて、最後に合奏できたのが良かったです。」など、多くの感想をいただきました。

課外教養プログラムでは、今後も日本文化についての知識を身に付け、体験を通して学ぶことのできるプログラムを実施していきます。

【三曲会代表 佐藤さんの感想】

三曲体験教室では、三曲合奏や箏・三味線・尺八の紹介を行った後にミニコンサートを行い、邦楽(日本の伝統的な音楽)について理解を深めてもらいました。その後は実際に参加者の皆さんが各楽器を体験し、最後に『さくら さくら』の合奏を行いました。

新入生歓迎会や自主法政祭でも体験などは行っていましたが、初めて、課外教養プログラムのようなプログラムに沿って体験教室を行う三曲会の会員も多く、時間内に教えること、その中で如何に教えるかといった難しさがありました。これからにつながる良い機会になったと実感しています。また、参加者の皆さんがフレーズを弾けるようになった際や、音が出せるようになった際に、楽しそうな様子をみることができ、実施できてよかったと改めて感じました。

2024年度・KYOPRO 活動報告

今回の三曲体験教室を通して邦楽（日本の伝統的な音楽）の魅力を知り、興味を持てただけなら嬉しい限りです。課外教養プログラム「三曲体験教室」にお越しいただき、ありがとうございました。

プログラムの様子



＼資産形成で学ぶ／ 初めての金融講座

日 時 2024 年 12 月 20 日（金）16:50～18:30

場 所 市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 5 階 523-526

概 要

1. 参加者数：17 名
2. 講 師：
田中 友加 氏（金融経済教育推進機構（J-FLEC）認定講師）
3. 実施目的：
 - 学生がプログラムを企画・運営することによる「ピアサポート」の実践
 - 生活していく上で必要不可欠なお金や資産形成に関する知識を学生のうちから学ぶこと
 - 資産形成シミュレーション体験を通して、自分自身の将来のお金について考えること

4. 内 容：

12 月 20 日、法政大学課外教養プログラム「資産形成シミュレーションで学ぶ はじめての金融講座」を実施いたしました。

本企画は生活していく上で必要不可欠なお金や資産形成に関する知識を学生のうちから学ぶこと、資産形成シミュレーション体験を通して、自分自身の将来のお金について考えることを目的として実施しました。

講義中は、資料に書き込みをしたりと熱心に聞いていた様子が印象的でした。また、ワークでは、自分の考えや将来像を描きながらシミュレーションに取り組みました。シミュレーションの結果はグループ内で共有、意見交換も盛んに行われました。

参加者の多くは、「学生のうちから学べる資産形成を学びたい」ということが目的で参加しており、本企画の実施目的と合致しているため、学生のニーズを満たした企画だったと考えます。参加者からは、「金融について全く分からない状態だったので、全体的に知識を取り入れられたのが良かった」や「虫食い状態で持っていた知識の補完ができた」などの感想がありました。参加者にとって、将来のお金について考えるヒント、知識になった企画となりました。

【報告・KYOPRO スタッフ】 郷右近侑寿 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 1 年

KYOPRO 学生センター・課外教養プログラム(法政大学後援会補助事業)

＼資産形成で学ぶ／
はじめての金融講座

12.20(金)
16:50-18:30

「資産形成って何?」、「今のうちからお金の知識を学んでおきたい」...
そんな学生のみならず、一緒にお金の知識を正しく身に付けてみませんか?
資産形成の基礎知識や「学生のうちからできる資産形成」講座
そして、資産形成シミュレーション体験ができます!

対象と定員
本学学部学生/定員20名

申込み方法
大学HPまたは下記のQRコードから申し込みください。
*ログインする際使用するメールアドレス
はご自身の法政大学のメールアドレス
(...@stuhosei.ac.jp)をご入力ください。

企画場所
対面/市ヶ谷キャンパス
外濠校舎5階
523-526会議室

講師
金融経済教育推進機構(J-FLEC)
認定講師
田中友加氏
(株式会社エフビー・リファイン 代表取締役)
ファイナンシャル・プランナーとして、
ライフプランや資産形成に関する個別相
談や企業研修を行っている。

お問い合わせ: 市ヶ谷学生生活課
Email: ichigaku@hosei.ac.jp

プログラムの様子



星空観望会

～多摩の冬空を望遠鏡で見る、癒しのひととき～

日 時 2025 年 1 月 25 日（土）17:30～20:00

場 所 多摩キャンパス 円形芝生、総合棟多目的教室

概 要

1. 参加者数：31 名
2. 協 力：天体観望支援団体「宇宙魅せ隊」
3. 実施目的：
 - 学生が星や宇宙に興味をもつきっかけ作り。
 - 多摩キャンパスの魅力の再発見。

4. 内 容：

1 月 25 日（土）に課外教養プログラム「星空観望～多摩の冬空を望遠鏡で見る、癒しのひととき～」を開催いたしました。講師には、学校等での天文観望会の支援を中心として活動されている宇宙魅せ隊の皆様を再びお招きしました。

当日の流れは、まず、総合棟 4 階の多目的教室にて天体の解説をしていただき、その後多摩キャンパスの円芝へと移動して屋外での天体観望を行いました。円芝で望遠鏡と電子望遠鏡を利用し、宇宙や星に関する解説と共に星の観望を行いました。土星、金星、馬頭星雲・バラ星雲・ハート星雲などを見ながら説明を聞き、該当する天体への理解を深めることができました。また、実際に観望することで、目で見えていた星とは異なる様子に、天体それぞれが持つ壮大さや美しさを学ぶことができました。特に、電子望遠鏡による観測は普通の望遠鏡を利用した観測とは違い、小さい星座を簡単に拡大させて見やすかったです。

「星座を実際に観測する」という日常生活ではなかなか体験できないことから参加学生の満足度も高く、星座・宇宙に関心を多く寄せるきっかけとなりました。実際に屋外で星空を観測する経験を通し、星座の知識を深めながら楽しく天文学に触れることができました。参加学生の皆様には、当プログラムがきっかけに星や宇宙に興味を持っていただけると嬉しいです。



【報告・KYOPRO スタッフ】社会学部社会学科 4 年 ハムジュンソ

プログラムの様子



『焚き火体験』～アウトドアを楽しもう！～

日 時 2025年2月26日(水) 16:30～18:30

場 所 平和島公園キャンプ場(東京都大田区平和島4丁目2-2)

概 要

1. 参加者数：12名
2. 講 師：
張江 輝洋 氏 (TOKYO TAKIBI TIME 代表、焚火師)
3. 実施目的：
 - アウトドアの魅力を知ってもらう
 - 学生同士のコミュニケーションの活発化

4. 内 容：

2月26日に法政大学課外教養プログラム「焚き火企画～アウトドアを楽しもう！～」を実施いたしました。本企画は普段なかなかできない焚火に注目をして、アウトドアの魅力やコミュニケーションを通して参加者同士の交流を図ることを主目的として実施しました。

企画中は講師の人から火のつけ方や薪の入れ方などを教わり、実際に参加者が行うことでより焚火の魅力を知ることができたと感じました。また、焚火を囲みながらお菓子や飲み物を持参してグループワークを行うことで、参加者の意外な一面を見ることができて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

企画終わりには参加者と講師の方と直接お話しする時間があり、感想やアドバイス等を受け取り満足のいく企画になりました。本企画に協力して下さった講師の方、学生生活課の職員さん、スタッフの皆様ののおかげで実施することができましたことをこの場を借りて感謝申し上げます。



【報告・KYOPRO スタッフ】山口 皆人 理工学部機械工学科 2年

プログラムの様子



大学生から始める資産形成

日 時 2025年3月4日(火) 13:30~15:10

場 所 Zoom によるオンライン開催

概 要

1. 参加者数：16名
2. 講 師：
高木 典子 氏（ファイナンシャルプランナー）
3. 実施目的：
 - 資産形成の基礎知識を学び、自分に合った資産形成を考える機会を提供すること
 - グループワークを通して学生同士のコミュニケーションの活発化を図る

4. 内 容：

2025年3月4日に「大学生から始める資産形成」をオンライン形式にて開催しました。講師としてファイナンシャルプランナーの高木典子様をお招きし、ライフプランから見る資産形成についての講義を行って頂きました。当日は、資産形成についての基礎知識を学ぶことから始まり、その後グループワークを行いました。グループワークでは、提示された課題を解決するためにはどのような資産形成が必要なのか、またより良い人生設計に向けた資産形成のあり方について複数名で議論が行われました。

資産形成についての基礎知識を学ぶだけではなく、実際に自分に合った資産形成の方法を考える貴重な機会を得ることができました。参加者にはこのプログラムを通じて、未来を見据えた資産形成について考える重要さを実感して頂ければ幸いです。



学生センター・課外教育プログラム（法政大学後援会補助事業）

大学生から始める
資産形成

3月4日(火) 13:30~15:10 講師：高木典子氏
(ファイナンシャルプランナー)

開催形式 Zoom
対象 本学学部生
定員 30名
参加費 無料

投資に興味があるけど
なかなか手が出せない、
そんな人におすすめ！
はじめの一歩を
踏み出しましょう！

主催：学生センター 後援：法政大学
お問い合わせ：学生センター 課外教育プログラム課
TEL: 042-387-8271

【報告・KYOPRO スタッフ】木下 歩梨 生命科学部応用植物科学科2年

プログラムの様子

02 リスク・リターンとは？

リターン

・投資した結果得られる利益
(または損失)

リスク

・リターンが予想から外れる可能性 (その範囲)

投資のリスク

03 NISAとiDeCo

NISAとiDeCoどちらをやる？

※併用可能です。

NISA	iDeCo
いつでも解約し、現金が引き出しできる	原則60歳まで引き出しできない
月々500円から積立できる(金融機関による)	月々5,000円以上1,000円単位
掛金は税金の優遇なし	掛金が全額所得控除になる
口座の手数料はない	口座の手数料がかかる
いつでも金額変更できる	金額の変更は1年に1度

自分の目的に合った制度を利用しよう

00 投資詐欺に注意！

「クレ・サラ」詐欺

・高利な契約を「お金がない」といって断る若者に対して、事業者がカードローンやクレジットカードのキャッシングなどの借金を促し、強引に契約を結ばせる悪質な手口で、情報商材やマルチ商法に関連した契約に使われることが多い。

「海外投資」詐欺

・出会い系サービスで知り合った人から、暗号資産を使った海外の投資サイトを紹介されて、投資金をだまし取られるトラブルが頻発しています。

※投資に「必ずもうかる」はない！
※万が一トラブルに遇ってしまった場合や不安に思うことがある場合は、早めに消費者ホットライン188に相談！



付録

保存版

学生センターの使い方 学生生活の注意事項(※)

※詳細は8面を確認してください。

新入生みなさん、入学おめでとうございます。大学には学生のみなさんの学生生活を支援する「学生センター」という部局があり、市ヶ谷キャンパスでは外濠校舎1階にあります。でも「学生センターって何するところ?」という新入生も数多くいると思います。そんなみなさんのために、学生センターとはどのようなことをしているところなのか、簡単にご紹介します。また、今後学生生活を送る上で、注意いただきたい内容を8面にまとめました。内容を確認し、ぜひ充実した学生生活を送ってください。

学生センターの基本業務 (市ヶ谷学生生活課・厚生課・ボランティアセンター/外濠校舎1階)

※詳細は「学生手帳」にも記載されています

① 通常窓口業務

- 落とし物(拾得物・遺失物)の対応
- 通学証明書(通学定期券等)、団体旅行割引証明書、自転車駐輪場利用申請書、学生教育研究災害傷害保険等の受付
- 緊急事態(ケガなど)、トラブル(盗難、カルト宗教、悪徳商法など)の相談 など

③ 課外活動支援業務

- 課外教養プログラムの実施、ボランティア活動の支援
- 「開かれた法政21」学術・文化奨励金の実施
- 学生団体が行う正課外の企画に対する経費補助など

※上記の課外活動支援には、一定の資格等を有する個人・団体を対象とするものがあります。

② サークル(登録団体)支援業務

- 新入生歓迎祭、大学祭、その他学友会行事の支援
- 各種利用願(教室、学生施設、キャンパス・パブリックスペース等)の受付
- 団体登録、サークル補助金、その他サークル活動支援の諸業務 など

④ 奨学金等業務(厚生課)

- 法政独自の奨学金ならびに、日本学生支援機構、民間企業財団や地方公共団体などの奨学金に関する業務(詳細は3面～5面へ)
- アルバイト探しの支援(詳細は6面へ)

● 学生センター開室時間 (市ヶ谷) ●

※授業期間外や、行事により、開室時間が異なる場合があります。

【平日】

《学生生活課・ボランティアセンター・学生相談室・障がい学生支援室》

9:00～17:00 (11:30～12:30 閉室)

《厚生課》 10:00～17:00 (11:30～12:30 閉室)

【土曜】

《学生生活課のみ》 9:00～12:00

ボランティアをしよう!

～自分のために、そして誰かのために～

大学生になって「新しいことにチャレンジしたい!」「自分の世界を広げてみたい!」と思いませんか? ボランティアセンターでは、環境/福祉/被災地支援/まちづくり/国際/教育など、様々なジャンルのボランティア情報があり、学生スタッフも気軽に相談のつてくれます。ボランティア活動を通して、新たな体験・新たな出会い・新たな学生生活を手に入れましょう!

■ 学内でのボランティア啓発講座

学内でボランティアをするきっかけになる啓発講座を企画実施しています。



セラピードッグ企画



献血啓発企画



農業ボランティア

■ 学外でのボランティア活動

学外で普段体験できないボランティアを企画実施しています。

■ 地域貢献ボランティア

市ヶ谷キャンパスから徒歩10分圏内で活動するボランティアです。



東京メトロ飯田橋駅ボランティア

■ 被災地支援・防災関連ボランティア

被災地ボランティアツアー、キャンパス内に宿泊する防災キャンプも実施しています。



能登半島沖地震災害救援ボランティア



もしもに備える防災キャンプ



チーム・オレンジ 学生スタッフ募集

チーム・オレンジは、被災地・被災者のために「何かしたい!」という学生が集まってできた組織です。被災地支援及び防災全般について、学部生に活動の輪を広げるために教職員と協働し、活動しています。

VSP 学生スタッフ募集

VSP (ボランティア支援プロジェクト) は教職員と協働し、学部生のために、学内および地域貢献ボランティアなどの企画・実施等を行っています。初心者でも様々なジャンルのボランティア活動ができます。

課外教養プログラムに参加しよう!

【学生センターでは、法大生の多様なニーズに応えるため、課外教養プログラムを実施しています。】

法政大学の HP や法政大学 G メールなどで随時告知しています。お問い合わせは各キャンパス学生生活課へ!



2024年度 実施プログラム



作って学ぶ食品サンプル
～サンプルの果たす役割や作り方～



人工知能に心はあるのか
～文系・理系ともに大歓迎!
みんなで考える AI 講座～



東京六大学野球応援
(春季・秋季)

- 【基礎美容企画】 スキンケア方法、基礎的なメイクアップ方法を学ぶ(予定)
- 【和紅茶企画】 日本産の茶葉で作られた紅茶である和紅茶について学ぶ(予定)
- 【和菓子企画】 和菓子の製作体験や、講義で職人の想いに触れる(予定)

2025年度4月・5月開催予定!

学生スタッフ
募集!!



プログラムを教職員と一緒に企画し、運営する課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)の学生スタッフを募集しています。キャンパスごとにそれぞれ活動していますが、定期的に合同ミーティングを行っています。学年を問わず、いつでも、誰でも、やりたいと思った時に加入できます。「自分でプログラムづくりをしてみたい!」という方はもちろん、「ちょっと興味があるな」という方も各キャンパス学生生活課にお問い合わせください。

課外教養プログラムに参加しよう！

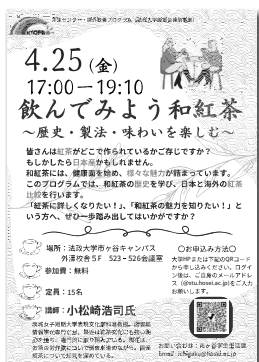
■課外教養プログラムとは？

法大生の多様なニーズに応えるため、学生センターでは1993年から課外教養プログラムを展開しています。テーマも「スキルアップ」「古典芸能鑑賞」「スポーツ観戦」などと幅広く、いつもの授業とは一味違った体験ができます。参加者からは「学びの幅が広がった」「受講して興味を持ったので自分でも深めていきたい」といった感想が寄せられています。

さらに2007年からはプログラムを教職員と一緒に企画し、運営するKYOPRO(課外教養プログラムプロジェクト)スタッフも誕生しました。学生の視点、活力が加わったことで、法大生のニーズにより順応したプログラムが実施されています。2024年度は38のプログラムに、約1,120名が参加しました。

2025年度 実施報告！

飲んでみよう和紅茶 ～歴史・製法・味わいを楽しむ～



4月25日、法政大学課外教養プログラム「飲んでみよう和紅茶～歴史・製法・味わいを楽しむ～」の企画を実施いたしました。

本企画は、日本と海外の紅茶を飲み比べ、風味や特徴の違いを理解してもらうとともに、魅力に気づいてもらうこと、知っているようで知らない日本文化になりうる和紅茶を知ってもらうことを目的として開催しました。

茨城女子短期大学表現文化学科准教授である小松崎浩司氏に講師を務めていただきました。講義を行った後、3～4人のグループ編成を行い、参加者自ら紅茶を淹れて飲み比べを行いました。

講義では、和紅茶の歴史・種類・製法をはじめ、和紅茶に関する基礎知識を学びました。これにより、

普段聞きなれない「和紅茶」がどのようなものが理解が深まりました。

飲み比べ体験では、6種類の和紅茶と2種類の海外の紅茶を飲み比べました。「和紅茶」と言っても、品種や摘む時期が異なる茶葉をご用意くださったので、より味の違いが分かりやすかったです。紅茶を淹れる際は、グループごとにお湯の温度・お湯を入れてから飲むまでの時間など条件を変えて行いました。各グループごとに体験内容や味が異なるため、自然とグループの垣根を越えて飲み比べを行い、参加者同士のコミュニケーションが多くなりました。

企画実施後のアンケートにおいては、満足度は非常に高く、「様々な紅茶を飲み比べられて楽しかった」、「お茶にもいろいろな種類があり、淹れ方によってお茶の風味が大きく変化することを知れてよかった」、また「企画の雰囲気良かった」とのコメントがあり、KYOPRO スタッフのミッションである「参加者間の交流」が達成できたと感じました。

【報告・KYOPRO スタッフ】吉村未夢 キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 3年



集合写真



講義の様子



紅茶を計測している様子



グループワークの様子

作って学ぶ和菓子教室 ～和菓子の魅力や職人の思いに迫る～



6月3日、法政大学課外教養プログラム「作って学ぶ和菓子教室～和菓子の魅力や職人の思いに迫る～」を実施いたしました。

本企画は、和菓子についての講義と製作体験を実施することで、職人の思いや日本文化に触れ和菓子に興味関心を持ってもらうことを目的として実施しました。

神楽坂梅花亭 4代目当主である井上豪氏に講師を務めていただきました。参加者は2つのグループに分かれて、講義と製作体験を交互に行いました。

講義では、和菓子の特徴・種類・洋菓子との違いといった基本的知識に加え、井上氏が海外で得た貴重な体験もご紹介いただきました。これにより、和菓子の奥深さを学ぶのみならず、和菓子を世界に届けたいという井上氏の熱意に感銘を受けました。参加者からは「なぜ和菓子職人を目指したのか」「一番好きな和菓子は何か」といった多くの質問が寄せられ、非常に有意義な時間となりました。

製作体験では四葩(よひら)と草堂きんとん(くさばたきんとん)の2種類の和菓子をつくりました。四葩はアジサイの別名でピンクの餡と紫の餡をつぶして、ぽかしながら小豆を包んでいきます。花びら表現の際には専用道具を用い、繊細な工程に挑戦しました。多くの参加者が和菓子製作の難しさを実感しましたが、実際に体験することで和菓子



集合写真



講義の様子



製作の様子



製作の様子

づくりの大変さや季節を表現する工夫を深く学ぶことができました。

参加した学生からは企画後のアンケートにて、「実際に和菓子作りをしている方のお話を直接聞くことが出来たのがよかった。」「あまり馴染みのない和菓子の世界に触れられ、新たな世界が拓けた。」「体験も初めてだったので、ワクワクしながら臨んだ」とのコメントがあり、和菓子に興味を持つきっかけとすることができました。

【報告・KYOPRO スタッフ】笹本愛佳 文学部英文学科3年

今後も、魅力的なプログラムを複数実施する予定です。詳細は、学生センター前での掲示をはじめ学内掲示板やHoppiiのお知らせを通じてご案内します。ぜひ興味のあるプログラムに参加してみましょう！皆さんの参加をお待ちしています。

2024 年度課外教養プログラムプロジェクト活動報告書

発行者：法政大学学生センター

住所：東京都千代田区富士見 2-17-1

印刷者：邦美印刷株式会社

発行日：2026 年 3 月 19 日

